

学校法人 同志社
事業報告書
2014

同志社ブランド——良心教育を強化

The Doshisha Social Responsibility Report 2014



学校法人 同志社
<http://www.doshisha.ed.jp/>

One purpose, Doshisha, thy name

Doth signify; one lofty aim;

To train thy sons in heart and hand

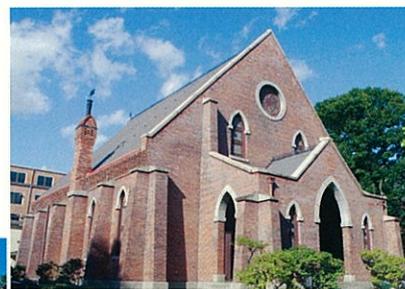
To live for God and Native Land.

Dear Alma Mater, sons of thine

Shall be as branches to the vine;

Tho' through the world we wander far and wide,

Still in our hearts thy precepts shall abide!



官許同志社英学校として1875年に始まった同志社は、今年の11月に創立140周年を迎えます。創立以来、多くの困難を乗り越えて教育・研究活動を続け、現在では約4万3000名の学生・生徒・児童が学ぶ「一大総合学園」に成長し、進化を続けています。これもひとえに、保護者や卒業生をはじめ、地域や行政機関、企業、一般市民の方々からの温かいご支援・ご指導があったからこそと、感謝しております。

2014年は新島襄の海外渡航150周年に当たり、新島の志を偲ぶ多彩な記念行事を開催しました。また良心教育に関するシンポジウムも2回目を開催し、その今日的意義を見つめました。2015年4月には同志社女子大学に6番目の学部となる看護学部が開設されました。これは新島襄の医療人育成への志を受け継ぐという面でも、非常に重要です。

学校法人同志社は、今後も教育・研究に関する改革を推し進め、健全な学校法人運営を維持するため、すべてのステークホルダー（利害関係者）の皆様に対して、情報公開を徹底してまいります。

本報告書によって、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションが、より一層促進されることを心より願っております。

2015年5月23日
学校法人 同志社

本報告書の対象範囲

同志社法人部、ならびに幼稚園から大学までの各校。数値・金額にはそれぞれ対象範囲を付記しています。

本報告書の対象期間

2014年4月1日～2015年3月31日
(一部、上記期間以前または以後の状況についても記載しています)

学校法人 同志社
事業報告書2014

2015年5月23日発行
発行：学校法人 同志社
〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
URL <http://www.doshisha.ed.jp/>

無断転載を禁止します。

All Rights Reserved.

Printed in Japan ©The Doshisha

The Doshisha Social Responsibility Report 2014

お問い合わせは

学校法人同志社 法人部法人事務部法人事務室
〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
TEL 075-251-3006
FAX 075-251-4980
E-MAIL ji-hojin@mail.doshisha.ac.jp

Contents

目次

教育理念	3
法人内各学校	3
■ 大谷 實 総長からのメッセージ	4
創立140周年を迎え	
良心教育を同志社ブランドに	
■ 水谷 誠 理事長からのメッセージ	5
健全かつ安定した財務を基盤に	
教育力・研究力を強化	
■ 同志社女子大学長、看護学部長対談	6
新島襄の医療人育成への志を受け継ぎ	
女子総合大学の強み生かす	
—看護学部を開設	
同志社女子大学 加賀裕郎学長	
同志社女子大学 岡山寧子看護学部長	
■ 事業の概要	8
同志社大学	8
同志社大学2014年ハイライト	12
同志社女子大学	14
同志社女子大学2014年ハイライト	16
同志社中学校・高等学校	17
同志社香里中学校・高等学校	18
同志社女子中学校・高等学校	19
同志社国際中学校・高等学校	20
同志社小学校	21
同志社国際学院	22
同志社幼稚園	23
各学校2014年ハイライト	24
■ 法人の取り組み	25
■ 【特集1】良心教育に関するシンポジウム	26
世界に通用する「良心」とは	
良心教育の今日的意義を考える	
■ 【特集2】新島襄海外渡航150周年記念事業	27
函館、風間浦、今出川で熱い志を偲ぶ	
多彩な記念行事を実施	
■ 【特集3】グラフで見る同志社	28
■ 財務の概要	30
概況	30
資金収支計算書	30
消費収支計算書	32
貸借対照表	34
財務比率	36
学校別の状況	37
2015年度の事業計画	38
■ 法人の概要	39
理事、監事、評議員、沿革	

教育理念

同志社は、1875(明治8)年、新島襄によって創立された、わが国有数のキリスト教主義の学園です。創立当時の生徒はわずか8名でしたが、現在は同志社大学、同志社女子大学のほか、四つの高等学校、四つの中学校、小学校、国際学院と幼稚園を含む総合学園となり、学生・生徒・児童・園児は約4万3000名、教職員は1900名を超えています。また30万名を超える卒業生は、経済・政治・宗教・教育・社会事業など多方面で社会のために活躍しています。

新島は同志社の教育目的を1888(明治21)年、全国に発表した「同志社大

学設立の旨意」の中で、次のように述べています。

「(同志社設立の)目的とする所は、独り普通の英学を教授するのみならず(中略)、其精神を正大ならしめんことを勉め、独り芸芸才能ある人物を教育するに止まらず、所謂る良心を手腕に運用するの人物を出さんことを勉めたりき」^(*)

新島は、知育、体育だけでなく徳育を含めた「知・徳・体」の調和ある教育の実践を理想としていました。教育を通して生徒・学生が、型にはまらず独立心と才能あふれる個儻不羈なる人物として、「自治自立の人民」「一国の良

心」となることを究極の目的としました。

同志社では新島の建学の精神を受け継ぎ、キリスト教主義、自由主義、国際主義を教育の重要な柱としています。また、生徒・学生の個性や彼らの自発性を尊重し、全人教育を通して広い視野から現状分析と将来展望を持って行動することのできる人間、自らの良心に従って生きる人間、新島の言う「自治自立の人民」の育成を目指します。グローバル化が進む21世紀では、ますます新島の建学の理念が、そして同志社教育が重要性を増すことでしょう。

(*)「同志社大学設立の旨意」『新島襄全集』より

法人内各学校



(2015年4月現在)



おの ら
大谷 實
総長からのメッセージ

Message from
Chancellor

創立140周年を迎え 良心教育を同志社ブランドに

—— 2015年は同志社創立140周年に当たります。

官許同志社英学校は1875年11月29日に、新島襄と宣教師デイヴィスの二人の教師、わずか8名の生徒で開設されました。それから140年が経ち、同志社は14の学校、園児から学生まで4万3000名を擁する一大総合学園に発展してまいりました。

125年前の1890年1月23日14時20分、新島は大磯の地で亡くなりました。2015年はその1月23日に、新島永眠125年を記念し、大磯にて碑前祭と講演会を実施いたしました。講演会では、新島の志を校友・同窓だけでなく、地域の皆様にもお伝えしました。

同志社創立140周年、新島永眠125年という記念の年が、創立150周年、200周年に向けた新たな一歩となることを、総長として念願しています。

—— 学校法人同志社をさらに魅力ある学園にしておくためには、何が重要でしょうか。

ハード面の改革は一定の成果を出したと思われます。今後はさらにソフト面を強化していくことが大切であると

考えています。良心教育を「同志社ブランド」として一層鮮明に打ち出し、社会にアピールしたいと願っています。良心教育を通じて、現代に最も欠けている徳育をより強化したい。その取組の一つとして、私が委員長を務めるキリスト教教育委員会に働きかけ、「良心教育に関するシンポジウム」を2年続けて開催しました。

—— 国際化、グローバル化の取組について、具体的にお聞かせください。

11年に元オムロン代表取締役会長の立石信雄氏から、「法人内中学校・高等学校における英語力強化」を趣旨とした多額の寄付をいただきました。これを立石ファンドとして、法人内4中高にプログラムの策定と実施を進めてもらっています。プログラムの一つである「同志社 中学生・高校生英語大会—立石杯—」も定着し、今年2月には4回目を実施しました。

12年からは、ハワイのプナホウ・スクールのプログラムに参加するというプログラムも始まっています。さらに、14年には「同志社 中学生・高校生英語プレゼンテーション大会—立石杯

—」の第1回も開催しました。こうした取組によって、かつて世間で評されていた「英語の同志社」の復活を目指します。

こうした英語に関する取組は、今後、同志社小学校と同志社国際学院初等部にも広げていきたいとも考えています。

—— 一貫教育の充実の進展はいかがでしょうか。

これまで、法人内各学校の連携・交流を促進し、学園としての同志社のスケールメリットを最大限に生かすプログラムを実施してきました。例えば、07年からの「合同学校説明会」や08年からの「同志社研修・交流会」です。

14年からは新たに、法人内学校同士のスポーツ交流を盛んにする取組として、元大学ラグビー部監督の中尾晃氏に「中高大課外活動連携指導者」を委嘱しました。今後、ほかのクラブでもこのような指導者の委嘱ができることを期待しています。

教学の統括者である総長として、引き続き新たな事業に積極的に取り組み、学園の一層の充実に尽力いたします。



みず たに まこと
水谷 誠
理事長からのメッセージ

*Message from
Chairperson*

健全かつ安定した財務を基盤に 教育力・研究力を強化

——大学から中高、小学校にいたるまで学校教育の改革が求められています。

少子化が進行する中で、学校間の競争は激化しています。グローバル化への対応、地域との連携、産学官連携など、学校が取り組むべき課題も山積する中で、他校にはない独自性、優位性を築くことが求められる時代に入っています。同志社では教育力・研究力の一層の強化に向けて各学校で工夫を凝らした改革を進めています。

創業者・新島襄が良心教育を実践しようとした同志社発祥の地・今出川のキャンパスには、同志社大学の人文・社会系の8学部がそろい、人文知・社会知を駆使して人と人の生きる社会の探究に向かっています。一方、複合教育・国際的先端研究の拠点として6学部を有する京田辺キャンパスにこのほど完成した訪知館に大学院脳科学研究科が移転し、各キャンパスが目指す教育研究の方向性がより明確になりました。

同志社女子大学は2015年4月に看護学部を開設し、薬学部とともに京田辺校地における医療系教育研究の体

制が拡充しました。今出川校地では、同志社女子中学校・高等学校とともに耐震性能を高め、アメニティーを重視した施設の整備が進められています。女子中学校・高等学校の新校舎の建築が16年春、女子大学では新新心館や新楽真館（いずれも仮称）などの建築が18年春完了に向けて進行中です。

また、同志社国際高等学校はスーパーグローバルハイスクールに指定され、同志社国際中学校では同志社国際学院初等部の卒業生の受け入れが始まりました。同志社全体がグローバルな教育研究機関を目指し邁進しています。——同志社大学の京田辺キャンパスには待望の礼拝堂が完成しました。

同志社は、キリスト教主義を基本とした教育研究活動を実践する学校です。同志社京田辺会堂は、同志社の精神性を象徴する施設であり、学生が集い礼拝をはじめとして多方面の催しを行う場となることが期待されます。京田辺会堂は礼拝堂の言館（KOTOBA-KAN）と展示スペースを持つラウンジである光館（HIKARI-KAN）で構成され、二つの建物は開放感あふれるガラ

ス面で向かい合っています。礼拝堂ではチャペル・アワーが週3回、昼休みにはオルガンの音色とともに静かな時間を過ごすメディテーション・アワーが開催されています。

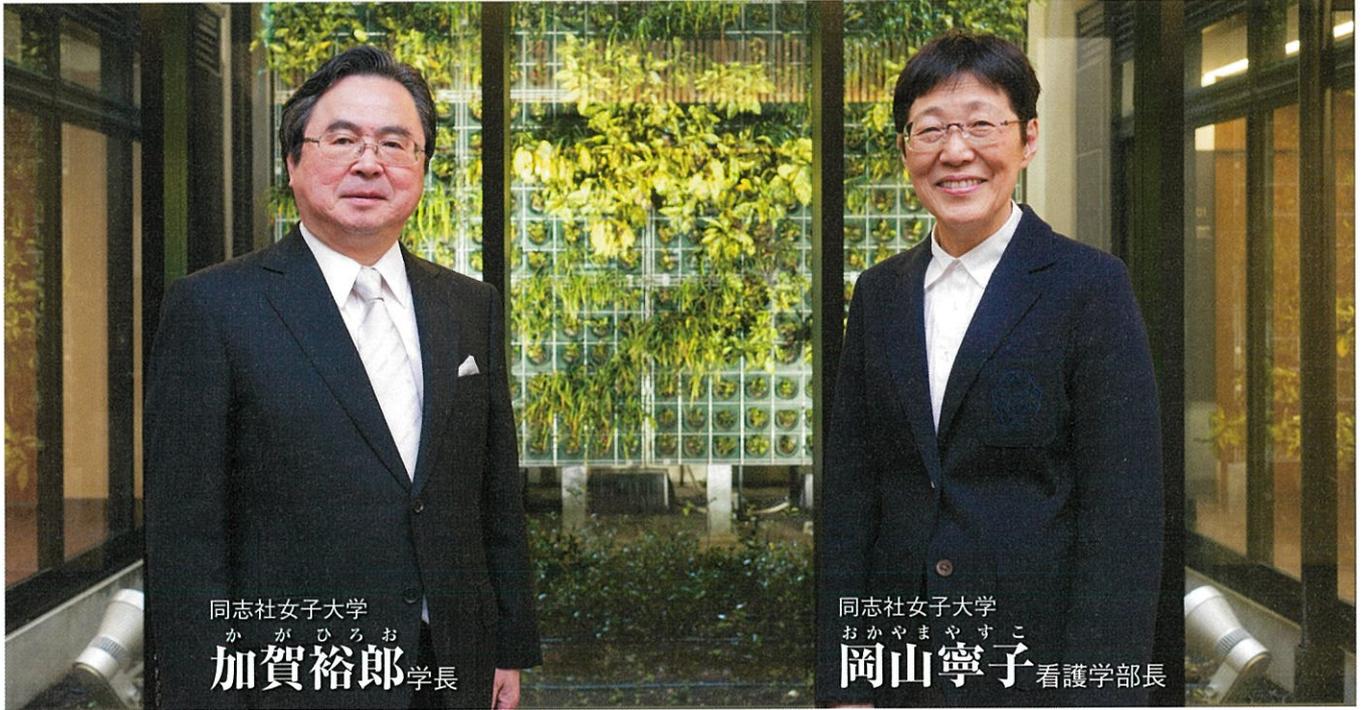
——教育力・研究力の強化には、**強固な財務基盤が欠かせません。**

同志社は、このほど改正された学校法人会計基準に対応しつつ、経常勘定と建設勘定を分離して財政の均衡を図ることを目的とした独自の会計制度を今後も継続して採用します。各学校の独立採算制を維持するとともに、各学校が中長期計画に基づいて規模の大きな整備事業を実施する際には、学校法人内部で資金を融通しあう相互協力システムを構築しています。財務内容は健全で、かつ安定しています。現在取り組んでいる事業は借りに依存せず、すべて自己資金で賄っています。

同志社140年の伝統で培われた知見を活用し「独自一己の気象を発揮し」「良心を手腕に運用」する人物の育成という建学の精神の涵養に教職員一同が努めてまいります。

（アーモスト館にて）

新島襄の医療人育成への志を受け継ぎ 女子総合大学の強み生かす ——看護学部を開設



同志社女子大学
かがひろお
加賀裕郎 学長

同志社女子大学
おかやまやすこ
岡山寧子 看護学部長

蒼苑館エントランスにて

——2015年4月に開設された看護学部は、同志社女子大学として薬学部が続く医療系学部です。同志社と医療のかかわりについてお聞かせください。

加賀 私立大学としての同志社の設立を悲願としていた新島襄は、学部としては神学部と法学部、そして医学部を備えた大学を構想していました。自前での医学部設立はかなわなかったものの、1886(明治19)年、京都看病婦学校・同志社病院の開設に至りました。これは日本で2番目の看護師養成機関です。

岡山 1890(明治23)年に新島が早世した後、その経営は同志社から医師・佐伯理一郎に引き継がれ、1951(昭和26)年までに2000人以上の卒業生を送り出しました。そのお一人に話を伺う機会があったのですが、佐伯医師もまた敬虔なクリスチャンで、良質な医療人の教育をされていたそうです。看護学部ではこの志を受け継いでいき

たいという思いがあります。

——キリスト教と医療の関係は深いものなのでしょうか。

加賀 福音書を読むと、イエスが病める人を治癒する場面がたくさん出てきます。私が思うに、当時の宗教家は身体だけでなく心も含めた癒やしを行ったのでしょうか。healing(癒やし)の語源をたどるとwhole(全体)に行き当たります。つまり肉体とともに精神をも含む、人間の全体性の回復を目的としていたのではないのでしょうか。

また新島自身も「病気のデパート」と称されるほど病弱だったため、医療や看護の大切さをよく知っていたのでしょう。医療を通じて感じたことが、「愛を以てこれを貫く」ことこそキリスト教の神髄という新島の信条と響き合うものがあったと考えられます。

——翻って、現在の医療・看護において必要とされる素養はどのようなものなのでしょうか。

岡山 少子超高齢社会にある現在、保健、医療、福祉の流れも大きく変わってきています。例えば私の若いころ、看護師は病院で病気を治すことへの支援に主眼を置いていました。しかし現在は入院期間が短くなり、病気を抱えながら自宅で療養生活をされている人、自らあるいは家族への健康の維持増進に努めている人が増えています。

そうした人々の健康や生活に、どう寄り添い支援していくかが課題となっています。従来通り治療を意味するcure(キュア)にも対応しつつ、健康や生活を守るという観点でcare(ケア)にも対応できる——。これが看護職に求められる時代になっています。

加賀 学内を見渡すと、careについて深く関わる学部は他にもあります。薬学部、生活科学部、学芸学部音楽学科音楽文化専攻、現代社会学部社会システム学科ライフマネジメントコースなどです。例えばライフマネジメントコー

スでは、終末期を迎えている人の心をケアする方法など、人間の命にも向き合います。そうした人の生死や悩みなどに寄り添っていく人物の育成もまた、同志社の女子教育に伝統的に受け継がれていることと考えています。

——様々な角度から、命にかかわる教育がなされてきたのですね。そうした他の学部・学科と看護学部との連携もあるのでしょうか。

加賀 はい、考えています。2015年2月に竣工した看護学部関連棟「蒼苑館」の1階には、薬学部の関連施設が入っています。例えば、ここで両学部が共同で研究することも今後なされていくでしょう。施設面をもう少し詳しく言えば、蒼苑館は実習室や研究室が主です。看護学部の学生たちも講義のため様々な棟に足を運ぶので、自ずと他の学部の学生との交流が生まれるはずで、そこで総合大学ならではの「化学反応」が起きて、多様性を持った看護師が育まれることを期待しています。

岡山 総合大学で学ぶ強みというのは非常に大きいと考えています。看護実践力を学ぶことを第一にするのは看護学部の学生としては当然です。しかしそのバックボーンとして人間力や、寄り添う心といったものをしっかり学んでほしいと思っていますし、総合大学にはそれらを学ぶ環境がそろっていると思います。

——まさに、身体だけでなく心をも癒やすという「人間の全体性の回復」を担う力が養えるということでしょうか。

加賀 そうです。看護というのは注射を打ったり手術の補助をしたり、ということだけではなく、ただ身体をふいて清めるだけで、弱っている命を回復させられることもあります。そうしたことを大切に医療人を育てたいと考えます。

言うなれば、同志社スピリットを持った看護職者を送り出したい。言葉にするのは難しいですが、自由かつ主体的に他者への愛を実践できる「キリスト教主義」、多様性を受け入れ人類の共生に取り組む「国際主義」、そして総合的に人間力を磨く「リベラル・アーツ」。これらを身に付けた上で、現場で活躍してほしいのです。

——同志社スピリットを現代の医療環境で生かすため、どのような教育手法を取られますか。

岡山 私が学生のころは「見て学べ」という教育で、実習先で看護師の働く姿を見て学んだものです。しかし今は医療環境も変わってきています。例えば患者さんの権利、個人情報などを守る必要があり、実習できる範囲も限られます。それでも看護技術は修得しなければなりません。様々なシミュレーターなどを使い、実習に赴く前にまず学内で練習を積むといった工夫が必要となっています。

そこで、蒼苑館の施設を充実させました。基礎看護学をはじめ、母性、小児、成人、高齢者看護学といった領域別に実習室を設置し、それぞれの看護技術をしっかり学ぶことができます。さらに学生たちが主体的に学べる環境として「プラクティカル・サポート・センター」を設け、開室時には看護スタッフの指導の下、学生が学びたい技術をいつでも学ぶことができます。

教育課程にも工夫を凝らしています。「全学共通科目」と「学科科目」から構成され、系統的で段階的な履修ができます。前者では幅広い知識や教養が修得でき、総合的な理解力が養えます。後者では医学や社会保障にかかわる科目と看護学関連の科目で構成され、専



2015年2月に竣工した看護学部関連棟「蒼苑館」

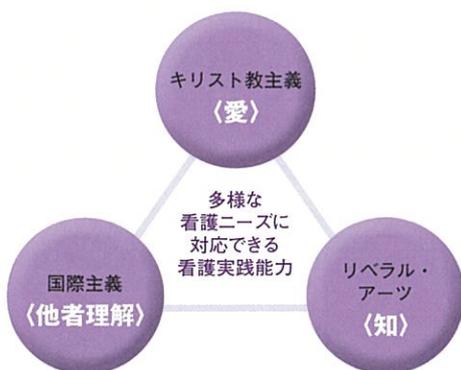
門的な学びを深めていきます。

——総合大学を舞台に人間力を育みながら、技術修得も自由に主体的にできる。それが同志社女子大学の看護学ということですね。

岡山 まだまだ模索中ではありますが、同志社女子大学らしい看護学教育を追求していきたい。卒業して看護職者として生涯頑張りたいと思う一方、もし看護の現場を離れても「ここで看護学を勉強してよかった」とずっと思えるような教育をしていきたいということです。それを今年入学した82人の学生と、様々な教育キャリアを持った教員たちとともに、コミュニケーションを深めながら構築していきたいと思っています。

加賀 コミュニケーションで言えば、その範囲は学外にも広がります。すでに大規模な病院と包括協定を結び、新しいケアプロジェクトを進めていこうと協議しています。これは医療だけでなく、文系の分野も含めた学術交流を目指しています。病院という現場で様々な活動を展開し、そこから問題意識を持ち帰って学問に生かすという循環的な営みを実行していきたい。現場との交流によって新しい看護教育の理念と実践の在り方を探っていこうということです。

岡山 施設やカリキュラムを充実させる一方で、病院や施設での実習で得る部分も重視しています。そのフィールドが広がっていけば、また新たな連携の可能性が見えてくるでしょう。私自身とても楽しみにしているので、学生たちにも大いに期待を寄せていただければと思います。



看護学部で学ぶ専門的な知識、技術、態度と、それを支える同志社女子大学の強み

同志社大学

建学の精神に基づく教育・研究で
グローバル社会に資する人物を育成



■ 創立	1875年
■ 所在地	〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入玄武町601 TEL : 075-251-3110 〒610-0394 京田辺市多々羅都谷1-3 TEL : 0774-65-7010
■ URL	http://www.doshisha.ac.jp/

同志社大学は財政基盤の安定化を図りつつ、社会の動向や学生のニーズを的確にとらえ、建学の精神に基づく特色ある教育・研究を推進しています。

ビジネス研究科の英語で授業を提供するコースを専攻化

ビジネス研究科では、専門職大学院であるビジネス専攻の1コースとして設置されたグローバルMBAコースをさらに発展・充実させるべく、グローバル経営研究専攻(修士課程)の設置を文部科学省へ申請し、2014年2月17日付けで設置が認められました。同専攻は、14年4月に開設し、10月から学生の受け入れを開始しています。

すべての授業は英語で提供され、世界43カ国(グローバルMBAコースを含む)からの留学生を受け入れ、グローバル社会における国際ビジネスリー

ダーの育成に注力しています。

京田辺校地に宗教施設を新設

14年4月から建設中だった京田辺キャンパス初の宗教施設「同志社京田辺教会堂」が、15年3月に完成しました。コンペにより379点の中から採択した作品を基本に建設された同志社京田辺教会堂は、キリスト教主義を象徴する礼拝堂「言館」(KOTOBA-KAN)と、新島襄関連資料展示スペースやラウンジを持ち、自由主義に基づいて学生に自由な交流を促す「光館」(HIKARI-KAN)で構成されています。

言館と光館は、一体感と開放感を生み出すために、大きなガラス面により向かい合っており、礼拝堂が学生にとって敷居の高い特殊な場所ではなく、普段の生活の一部であるとい



同志社大学長
村田晃嗣

学長就任2年目の2014年は、三つの重要課題を年頭に掲げ、取り組んでまいりました。第一はグローバル化です。数を競う量的なグローバル化ではなく、これまでの実績を活かした同志社らしい質的なグローバル化を今後も引き続き進めてまいります。第二は学内のガバナンスの整備です。学長の企画立案機能の強化と意思決定・執行システムの改革を行うべく、11月に「学長室」を設置し、校務を進めているところです。そして第三は対外発信力の強化です。5月には「東京オフィス」を東京・京橋に新たに開設し、首都圏での情報発信の拠点として活用しています。おかげさまで、前回の「家元講座」に続いて「老舗講座」も大成功でした。

2015年は、2025年の同志社創立150周年に向けての「同志社大学ビジョン2025」、また、そのビジョンを実践するためのアクション・プランを策定してまいります。引き続き、同志社大学の教育研究活動にぜひご注目いただきたく存じます。

う親和性を表しています。さらに言館と光館の間には「新島襄の海」を配置し、若き日の新島が国禁を犯して米国へと渡った同志社の国際主義の原点を表現しています。

ここでは、宗教に対する「心のバリア」を下げ、学生生活の日常の中にキリスト教と新島の志を感じることで、いわば「神と人、人と人が出会う場所・時間」となるようにとの願いの下、様々なプログラムを行います。4月からは、250名収容の礼拝堂でチャペル・アワーを週3回、オルガンの音色に包まれて心静かな時間を過ごすメディテーション・アワーを昼休みに開いています。京田辺キャンパスの精神的なシンボルとして、学生が集う新たな拠点となるのが期待されます。

さらに京田辺校地には新たに訪知館を設置。学研都市キャンパスにあった

脳科学研究科などが入った 複合的研究施設としています。

グローバル化を推進する教育・研究が評価

15年3月10日、「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援 (Go Global Japan)」の中間評価結果が文部科学省より公表され、同志社大学のプログラムは「A評価 (これまでの取り組みを継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される)」を得ました。留学を含む教育実践取り組みによる「留学型」、国内にいながらグローバル人材と成り得る教育を実践する取り組みによる「国内型」の二つの独自プログラムが概ね順調に展開されていると判断されました。特に「Go Global”ポートフォリオ」や「Doshisha“Go Global” Passport」は、一つのモデルになる施策と期待され、また英語力向上についても、学生のニーズを正しく把握した対応がなされていると評価を受けました。

3月13日には、「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業 (グローバル30)」の事後評価結果が文部科学省より公表され、本学は中間評価に引き続き最高評価の「S」評価を取得しました。S評価を取得したのは、13大学中、本学と早稲田大学の2校のみです。「学長のリーダーシップが全学的に発揮され、大学の国際化が進展している」と評価され、英語による授業のみで学位が取得できるコースの開設や留学生受け入れの環境整備、日本人学生との交流・共生などの点で「高い目標が設定された状況で、概ね目標を達成しており、目標を大きく上回る項目も多いため、高く評価できる」とされました。

一方、12年度文部科学省「博士課程教育リーディングプログラム」に採択された「グローバル・リソース・マネ

ジメント (GRM)」も成果を上げています。GRMは同志社大学大学院の文系、理系の枠を超え、複数の研究科を横断して実施し、学生が自身の所属する研究科の学業と並行して履修できる副専攻プログラムです。14年度は九州大学と広島大学とともに、九州で合同フィールドワークを実施しました。

このフィールドワークは、クリーンな再生可能エネルギーとして注目の地熱発電をテーマに実施。環境面で多くのメリットを持っている地熱発電は、火山を多く有する日本には適した発電方式であると期待されています。3大学それぞれのプログラムの特徴を活かし、地熱発電の可能性を探りました。いずれのプログラムも世界の現場で活

躍するリーダーの養成を目的とすることから、単なる知識の詰め込みにとどまらず、発展途上国への開発援助を想定した学生の提言をもとに、企業や官公庁の方を交えたグループワークにより、活発な議論が行われました。

堅調な入試実績と安定的な大学運営

15年度 (15年4月) 学部入学者の入試実績は、一般選抜入試の志願者が4万185名、センター試験利用入試の志願者については9184名であり、引き続き高い水準にあります。入学者数は入学定員を上回り、堅調な財政状況に貢献しています。今後も安定的な大学運営を見込んでいます。

学部・研究科名	入学定員	入学者数	收容定員	在学生数	
学部					
神学部	60	62	240	289	
文学部	670	701	2,680	3,104	
社会学部	415	424	1,630	1,931	
法学部	850	866	3,400	3,788	
経済学部	850	924	3,400	3,906	
商学部	850	888	3,400	3,725	
政策学部	400	446	1,600	1,777	
文化情報学部	280	308	1,120	1,258	
理工学部	730	796	2,920	3,427	
生命医科学部	240	258	960	1,126	
スポーツ健康科学部	210	227	720	802	
心理学部	150	144	600	690	
グローバル・コミュニケーション学部	150	151	600	588	
グローバル地域文化学部	180	196	360	392	
合計	6,035	6,391	23,630	26,803	
研究科					
神学研究科	25	21	55	75	
文学研究科	79	38	175	124	
社会学研究科	53	34	122	117	
法学研究科	145	70	305	196	
経済学研究科	55	9	115	38	
商学研究科	70	17	145	46	
総合政策科学研究科	105	56	235	239	
文化情報科学研究科	35	19	72	57	
理工学研究科	345	408	703	800	
生命医科学研究科	124	115	262	236	
スポーツ健康科学研究科	11	8	25	22	
心理学研究科	14	13	32	46	
アメリカ研究科	—	—	—	5	
グローバル・スタディーズ研究科	63	44	144	135	
脳科学研究科	10	3	30	14	
司法研究科	120	47	360	132	
ビジネス研究科	70	73	140	133	
合計	1,324	975	2,920	2,415	
総計	7,359	7,366	26,550	29,218	
教員数、職員数 (2014年5月1日現在)					
教員数			職員数		
専任教員	嘱託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計
785	1,494	2,279	339	178	517
総計			総計		
2,279			2,796		

※理工学研究科には工学研究科を含む。

同志社(法人) 2014年度の事業実績

区分	事業	内容補足
教育・研究	第32回「東京新島講座」開催(12月13日)	講師・講演:川崎友巳法学部教授「犯罪と刑罰で読み解く現代社会」 講師・講演:松木啓子グローバル・コミュニケーション学部教授「グローバル化とコミュニケーション・ブレイク・イングリッシュをめぐって」
	第37回「新島講座」開催(11月25日、26日)	講師・講演:Robert E. COLE氏(カリフォルニア大学バークレー校ハーススクールオブビジネス名誉教授)「デジタル時代を生きる」 公開セミナー:「日本のソフトウェア産業の課題」
	第19回同志社国際主義教育講演会開催(1月14日)	講師:鷺田清一氏(哲学者・大谷大学教授・せんだいメディアテーク館長) 講演:「おとなの背中」
	第4回同志社「中学生・高校生英語大会—立石杯— Recitation & Speech Contest」(2月15日)	中学生の部(Recitation Section)D部門11名・I部門2名、高校生の部(Speech Section)D部門10名・I部門4名の計27名が出場、最優秀賞1名、各部門1名に優秀賞、優良賞を表彰
	第1回同志社「中学生・高校生英語プレゼンテーション大会—立石杯—」(9月14日)	テーマは、中学生「身近な国や地方、都市の紹介」、高校生「City-Urban Planning」、中学生の部7チーム21名、高校生の部8チーム24名の計15チーム45名が出場、それぞれの部に最優秀賞、優秀賞を授与
財政	募金事業	ローム記念館プロジェクト・サポート募金
その他	新島襄海外渡航150周年記念事業(6月14日)	創立者新島襄が函館の地から渡航して、150年目の記念の年に当たり、150年前の創立者の想いを偲ぶ記念行事を開催、碑前祭ならびに記念講演会、企画展など
	新島襄永眠125周年記念講演会(1月23日)	講師・演題:水谷誠(同志社理事長)「志の中で」 場所:聖ステパノ学園海の見えるホール
	社友記の贈呈	立石信雄氏(元オムロン株式会社代表取締役会長)、山崎舜平氏(株式会社半導体エネルギー研究所代表取締役)
	良心教育に関するシンポジウム(12月3日)	同志社教育の原点である良心教育について、良心教育の現状と課題を考える 基調講演:小原克博神学部教授「良心学とは」 パネルディスカッション:「良心学」が目指す地平—良心を世界へ
	第19回「国際交流に関するエッセイコンテスト」表彰	応募:日本語部門7点(大学生の部3点、高校生の部4点)、英語部門55点(大学生の部2点、高校生の部12点、中学生の部41点)、表彰:最優秀賞3名、優秀賞6名、佳作7名
	第171回「新島襄生誕記念会」開催(2月13日)	新島研究論文賞:アレクサンドラ・M・コピルスキ 新島研究功績賞:北垣宗治、本井康博 新島襄生誕記念懸賞論文表彰:最優秀賞3名、優秀賞2名、佳作4名
	Punahou School: Student Global Leadership Institute プログラム	期間:7月21日(月)~8月1日(金) 内容:講義、ディスカッション、フィールドワーク、アクティビティー
	ローム記念館	学生のための「ものづくり体験イベント」:Yahoo! JAPANとのコラボによる開発イベント「Hack U」
	2014年度「同志社総長賞」表彰	スポーツ活動および文化活動の国際大会、国際コンクールなどで入賞を果たした優秀な学生、生徒、児童または園児に対して、顕彰、個人16名と1団体(29名)
	同志社合同学校説明会の実施	幼稚園から大学まで合同の学校説明会を京都(大学オープンキャンパスと同日の8月3日)で開催

同志社大学2014年度の実績

区分	事業	内容補足
教学組織変更・定員改正	「ビジネス研究科修士課程」設置	グローバル経営研究専攻 入学定員:45名(収容定員90名)
教職員採用	設置キャンパスの変更	脳科学研究科(学研都市キャンパス・京田辺キャンパス)
教育・研究	教員・職員	専任教員22名、任期付教員など47名、専任職員21名
教育・研究	大学院博士課程教育リーディングプログラム【グローバル・リソース・マネジメント(GRM)】	オンサイト実習、国際会議&コンメン演習、インターンシップ&フィールドワーク、キャリア形成支援セミナー、Global Leadership Forum、GRM Lecture Series
教育・研究	私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の採択	先端工学研究センター「難治性角膜炎に対するトランスレーショナル研究の推進と国際的研究拠点の形成」、モビリティ研究センター「進化適応型自動車運転システム「ドライバ・イン・ザ・ループ」研究拠点形成」
教育・研究	私立大学等教育研究活性化設備整備事業	タイプ3「産業界・他大学等との連携」、タイプ4「グローバル化:国際交流活動のためのテレビ会議システム・プロジェクト・PC等の整備」
教育・研究	科学技術人材育成費補助事業「科学技術人材育成のコンソーシアムの構築(次世代研究者育成プログラム)」	ナノテクキャリアアップアライアンス(科学技術人材育成のコンソーシアム構築事業)への参画
教育・研究	京都府地域産業育成産学連携推進事業の採択	「糖尿病・認知症を同時に予防する京都産農産物の研究開発」
教育・研究	科学研究費助成事業	交付件数318件、交付金額約7億2,479万円
教育・研究	研究センターの開設	高機能微粒子研究センター、京都と茶文化研究センター、東南アジアのプランテーション研究センター、先端工学研究センター、生命倫理ガバナンス研究センター
教育・研究	寄付教育研究プロジェクトの開設(寄付講座)	「坂田記念ジャーナリズム振興財団寄付講座(現代メディア・ジャーナリズム論)」「京都メディア懇話会寄付講座(京都メディアの発信戦略と地域貢献)」「京都市消費者生活総合センター寄付講座(消費者問題と現代社会)」「連合寄付講座(働くということ—現代の労働組合—)」「同志社会計人会寄付講座(会計と現代社会—会計の現場から—)」「大学生協寄付講座(協同組合論—ひと・絆・社会連帯を求めて—)」「読売新聞寄付講座(特殊講義—メディアから現代社会を読む(3))」「社会保険労務士会寄付講座(現代の経営課題と労務監査—社会保険労務士会—)」「レイチェル・カーソン日本協会関西フォーラム寄付講座(政策トピックス—レイチェル・カーソンに学ぶ現代環境論—)」「ヤフー株式会社データ科学寄付講座(トピックス⑩—ビッグデータとデータサイエンス—)」「核兵器・原子力と人間社会(朝日新聞寄付講座)(グローバル・リソース・マネジメント特論21(核兵器・原子力と人間社会))」「核なき世界」へのアウトリーチ戦略と実践(朝日新聞寄付講座)(グローバル・リソース・マネジメント特論22(「核なき世界」へのアウトリーチ戦略と実践))」
教育・研究	他大学・研究機関などとの交流協定、包括協定、学生交換協定の実施(大学間)	国立東洋言語文化大学(フランス)、国立高等鉱業学校アルピ・カルモール校(フランス)、ポルトランド州立大学(アメリカ)、ウーロンゴン大学(オーストラリア)、カールスルーエ工科大学(ドイツ)、ウィータウタス・マグヌス大学(リトアニア)、マレーシア国際イスラーム大学(マレーシア)
教育・研究	他大学・研究機関などとの交流協定、連携協定の実施(学部・研究科間など)	チューリッヒ大学法学部(スイス)と法学研究科との学生交換協定、モンリオール大学法学部(カナダ)と法学部との学生交換協定、延世大学経営学部(韓国)と商学部との学生交換協定、カールスルーエ工科大学(ドイツ)と文化情報学部との学生交換協定、湖南大学外国語・国際教育学院(中国)と文化情報学研究所との特別研究学生交換協定、ユルドゥス工科大学電気電子工学部、自然科学・応用科学研究所(トルコ)と理工学部との学部間包括協定、オークランド工科大学健康・環境科学部(ニュージーランド)とスポーツ健康科学部との学部間包括協定、IE大学(スペイン)と国際教育インスティテュートとの学生交換協定、オマーン・スルタン国ワクフ(寄進財)・宗教省直轄教育機関イスラーム法学研究学院と一神教国際研究センターとの学術交流に関する覚書締結、タンジュンプラ大学社会政治学部(インドネシア)、京都大学東南アジア研究所と東南アジアのプランテーション研究センターとの学術交流並びに協力のための覚書、延世大学国語学研究所(韓国)とコリア研究センターとの学術交流並びに協力のための協定、東国大学対外交流研究院(韓国)とコリア研究センターとの学術交流並びに協力のための協定、大津市議会と政策学部・総合政策科学研究科との間におけるパートナーシップ協定、独立行政法人国立循環器病研究センターと同志社大学の交流に関する包括協定、株式会社国際電気通信基礎技術研究所と脳科学研究科との教育および研究活動に関する協定
教育・研究	連携大学院方式による教育・研究に関する協定書等締結	「株式会社きんでん」
教育・研究	産学連携の推進に関する協定書締結	「関西アーバン銀行」「株式会社日本政策金融公庫京都支店」
教育・研究	教育・研究交流を目的とした連携協力に関する包括協定締結	「宮古島市」と同志社大学
教育・研究	「新ビジネス」フォーラム キックオフ・シンポジウム開催	首都圏の産業界と、本学の研究資源をもとにした新技術・新産業の創出ができるような連携を目指して発足した同志社大学「新ビジネス」フォーラムのプレイベント、当日は124名の企業などの方々にご参加
教育・研究	研究情報の発信	「自然科学系産学連携研究紹介集」(研究シリーズ)の改訂版発行
教育・研究	大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業(Global 30)事後評価結果	事後評価結果が文部科学省より公表され、本学は中間評価に引き続き最高評価の「S」評価(「目的は十分に実現された」)を取得
教育・研究	「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援(Go Global Japan)」(申請区分:タイプA(全学推進型))	「国内型」「留学型」2つの独自教育プログラムを中心に、創立者である新島襄が目指した「良心教育」を礎として、「高い倫理観」と「幅広い教養」を兼ね備え、自らの責任で思考し、行動できるグローバルな人材の育成を目指す。11月15日西日本第1ブロック共同シンポジウム「大学が育成するグローバル人材とは」、11月28日第2回「同志社大学・早稲田大学共同SDワークショップ」、12月21日第2回Go Global Japan Expo「自分、ミライ発見!」などを開催、文部科学省による中間評価においては、本学は「A」評価(「これまでの取り組みを継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される」)を取得
教育・研究	国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム	ビジネス研究科「ASEAN・ロシア及びCIS諸国と我が国の経済発展に寄与する京都発グローバル型ビジネスリーダー養成プログラム」、理工学研究科「グローバルものづくりリーダー育成プログラム」
入試	志願者数	一般選抜入試4万1,855名、大学入試センター試験を利用する入試9,184名
	外国人留学生入試	ソウル(韓国)、台北(台湾)
	国際教育インスティテュート入試広報	日本留学フェア「Japan Day」(イギリス)および留学説明会(シンガポール)主催
	JASSO日本留学フェア	高雄・台北(台湾)、バンコク(タイ)、ソウル・釜山(韓国)、ジャカルタ(インドネシア)、ハノイ・ホーチミン(ベトナム)、北京・上海(中国)
海外指定校推薦入試	海外指定校推薦入試	ハノイ(ベトナム)、ソウル(韓国)、上海(中国)

区分	事業	内容補足
学生支援	大学院博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」履修生特別奨励金給付	グローバル・リソース・マネジメントのプレミナリ試験(PE)、あるいは、クオリファイ試験(QE)に合格し、博士学位取得およびグローバル・リソース・マネジメントの修了を目指す者に奨励金を給付
	博士後期課程若手研究者育成奨励金給付	博士学位取得を目指す入学時34歳未満の学生対象
	脳科学研究科特別奨励金給付	博士学位取得を目指す入学時32歳未満の学生対象
	同志社大学大学院私費外国人留学生授業料減免特別奨励金給付	留学生の20～30%に対し年間授業料を100%減免
	同志社大学私費外国人留学生授業料減免奨励金給付	年間授業料の50%、30%、20%を減免
	特定国からの外国人留学生に対する支援奨励金	特に経費支弁が困難である国や地域から入学を希望するものに月額8万5,000円に加え、学生納付金全額を支給
	留学生別科対象奨励金給付	年間授業料相当額の50%、30%または20%を支給
	東日本大震災被災学生支援基金	東日本大震災被災学費減免申請者35名に対し給付
	東日本大震災被災受験生に対する入学検定料および被災学生に対する学費減免措置の実施	受験生：入学検定料を全額免除 新入学生：入学金全額、春学期・秋学期学費授業料の2分の1を免除 在学生：春学期・秋学期学費授業料の2分の1を免除
	台風8号、11号、12号による大雨、御嶽山噴火による被害、長野県北部地震、大雪による被害に伴う学費など減免措置の実施	災害救助法適用地域被災者に該当する受験生、在学生に対して減免措置を実施
	コンビニエンスストア	3月20日から明徳館および志高館にオープン
	明徳館1F学生ラウンジ改修	9月29日にリニューアルオープン
	APSSA (Asia Pacific Student Services Association) 2014日本大会(国際会議)	2年に1度アジア環太平洋地域を中心に開催される学生支援部門の教職員および学生を対象とした国際大会、日本で初めて同志社大学を会場校として実施、16カ国350名の学生・教職員が参加
	課外プログラム	「函館キャンプ」「フレッシュヤーズキャンプ」「WOT(ワット)」「クローバーシアター」「CLAP」「b(ぶらっと)プログラム」「硬式野球部同立戦応援企画(春・秋)」「JAPONプログラム」
	新入生歓迎特別講演会(4月14日、4月17日)	宮本慎也氏(野球解説者)「球道即人道～野球から学んだリーダーシップ～」林 修氏「大学生に“今”伝えたいこと」
	アセンブリーアワー	7月8日「原爆×ART×記憶～ワイルドローバーからアルファ崩壊まで～」講師：映像作家 竹田信平氏 12月24日「世界を舞台に！アフリカビジネス最前線 世界で活躍する日本人」講師：金城拓真氏 1月22日「日本文化(RAKUGO)を世界へ」講師：桂三輝氏
	各種セミナー	6月9日：When Take Action with Compassion 愛をもって行動を起こすそのとき～フィリピン難島台風被災地支援レポート～ 6月25日：海外ボランティアセミナー 青年海外協力隊 7月16日：マルチ商法セミナー 気をつけよう大学生を狙うマルチ商法 1月22日：薬物乱用防止啓発講演会～危険ドラッグ依存症～医療現場からの報告～
	留学生課学生スタッフSIED (Student Staff for Intercultural Events at Doshisha) による国際交流イベントの実施	「国際交流お花見」「Fashion Meets Kyoto～京都で日本ファッションを学ぶ一日～」「BOOK CLUB～風立ちぬ～」「日本語&English Language Exchange Event “Speak Up!”」「お話の国～映画～」「LUNCH TALK」「Japanese Traditional Play～おりがみ～」「Doshisha Intercultural Presentation(異文化紹介)」「Summer Greeting Letter Event」「京☆インターナショナルチャネル」「Global Sushi」「World Kitchen」「書道体験」「TALK EVENT」「Let's Make Thanksgiving Pie」「KARAOKE CONTEST」「DISCUSSION EVENT」「News Watch」「にほんをあそぼう」「トークセッション」「講演会「TAKE ACTION～世界の今と、行動する生き方～」を開催
	新入留学生歓迎行事	「Open Lounge」「SCAVENGER HUNT」「PICNIC」「ハイキング」「京都散策ツアー」「工場見学へ行こう！～抹茶工場見学～」「座禅体験」「防災体験」を開催
	就職支援	「広島県」「徳島県」「香川県」「高知県」「岡山県」「愛媛県」と就職支援に関する協定書締結
財政	2013年度、2014年度入学生学費	前年度入学生に対し、4年間総額で学部および大学院ともに、5万円から10万円の範囲で増額改定
	第2号基本金組入	教育研究施設設備の整備充実にあたっては、財源を予め計画的に確保するため、教学施設所要見込総額に伴う組入(2013年度～2017年度)を毎年12億円ずつ実施
	募金事業	今出川キャンパス新校舎建設資金募金、教育研究施設等整備資金募金、特定寄付奨励金募金、スポーツ活動充実資金募金など
その他	「新ビジネス」フォーラム発足	新たに首都圏の産業界との関係を構築することを企画、キックオフシンポジウム(3月10日)
	連携・協力に関する協定締結	「一般社団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会」と同志社大学
	日本・トルコ国交樹立90周年記念シンポジウム	「新興国トルコと成熟国日本の交流を深化させるために」11月24日GRM、GS、BSおよび日本・トルコ協会主催
	国立循環器病研究センターとの交流に関する包括協定記念シンポジウム	2015年3月25日「IPS細胞時代の移植医療と生命倫理—ひと・医療・社会—」
	T.I.M.E.加入	T.I.M.E. (Top Industrial Managers for Europe) …欧州を中心とする理工系大学コンソーシアムに加盟
	客員教授リレー講座	裏千家家元 千宗室氏「茶の湯」、池坊次期家元 池坊 由紀氏「いけばなにおける自然観と美意識」、井上流家元 井上八千代氏「京舞について」、金剛流宗家 金剛永謙氏「能への誘い」、表千家若宗匠 千宗員氏「茶の湯のこころ」、大蔵流狂言師 茂山あきら氏「狂言というお芝居」
	高校生「志」コンテスト in 仙台	創立者新島襄の熱い「志」に共感する高校生の皆さんを対象として、将来の夢や希望の実現に向けた決意や想いなど、これからのキャリアについて自分自身の「志」を募集、2014年6月1日「同志社大学 1day キャンパス in 仙台」にて授賞式
	同志社ギャラリー企画展	「森浩一の考古学(4月12日～5月25日)」、「同志社と絵画」キャンパスに広がる同志社キャンパス(7月15日～8月31日)、「新島襄の「蓬桑」の志(6月5日～6月22日)」、「同志社と文学(10月15日～12月21日)」
	LinkedIn運用開始	受験生、大学生、卒業生、父母、社会における一般の方々など、様々なステークホルダーに対して正式運用開始
	リエゾンフェア	各企業、自治体などが参加し、本学のシーズを紹介(1月21日)
	新司法試験合格者数	26名(全国17位)
	韓国父母懇談会開催	韓国の学生・父母に他の学生・父母や本学教職員と直接懇談できる機会を提供することにより、韓国における本学のネットワークを強化することを目的に、2015年1月10日に韓国ソウル市にて開催
	Doshisha Spirit Tour～安中・会津キャンプ	同志社との関わりを知るなかで、影響を与えた人々の生き様とキリスト教について学ぶとともに、現在の同志社を見つめ、自らを省みようとする試み
	同志社クローバー祭2014	2014年11月1日～2日開催、学生・教職員・市民が一体となり、共に楽しみ、ふれあい、交流する場を創出し、大学と地域が連携した新しいコミュニティの形成を目指す
	地域連携企画	寒梅館夏祭り(2014年8月23日)：地域の小学生を対象とした夏祭りを開催 「おけいこ」企画(2014年5月26日～7月12日)：学生団体が小学生を対象としたおけいこ教室の先生をすする企画を開催
短期プログラム受け入れ	数週間～2カ月の短期留学生プログラムを受け入れ、実施(カールトンカレッジ、ノースイースタン大学、ニューオリンズ大学、メリーランド大学、ロチェスター工科大学、ハーバード大学、KCJS、CLS、同徳女子大学、同志社大学サマーセッション、スプリングセッション)	
「Japan Education Fair in Turkey 2015」開催	2015年3月14日日本留学フェア「Japan Education Fair in Turkey 2015」を主催(共催：在イスタンブール総領事館)。主に日本の大学院への留学を希望する学生を対象に、200名を超える現地学生のほか、プース参加4大学(東京大学、京都大学、慶應義塾大学、同志社大学)、総領事館、メディア関係者など、合計約320名もの参加者を集めた	

施設設備整備事業の内容

事業	内容補足	事業期間	事業費	財源	
今出川校地	耐震改修	神学館耐震改修	2014年度	6億2,800万円	学生生徒等納付金、寄付金
		新町別館耐震改修	2014年度～2015年度	2億7,600万円	※
	その他整備	育真館照明設備改修工事 啓明館空調機器改修工事	2014年度 2014年度	1,500万円 2,900万円	※ ※
京田辺校地	複合的研究施設建設	脳科学研究科移転を含む研究棟(訪知館)の建設	2013年度～2014年度	14億2,400万円	※
	宗教教育施設建設	チャペルを中心とする施設(言館、光館)建設	2013年度～2014年度	6億7,600万円	※
	その他整備	夜間照明設置工事軟式野球場、陸上競技場など	2014年度	6,600万円	※
		知真館1、2号館トイレ改修	2014年度	1億9,200万円	※
		恵道館空調機器更新	2014年度	3,900万円	※
		有徳館西館空調機器更新	2014年度	3,000万円	※
		知真館3号館昇降機更新	2014年度	1,200万円	※
		PBX・幹線増設工事	2014年度	2,000万円	※

ハイライト ① 卒業生、在学生の保護者への取り組み

東京オフィスの移転、リニューアルが完了

首都圏でのプレゼンスの向上と、校友・父母・企業との連携強化を目的に、東京オフィスを移転・拡張し、2014年3月4日から業務を開始しました。

移転したビルはJR東京駅の八重洲南口から徒歩6分、東京メトロ銀座線京橋駅から徒歩1分と交通の便が良く、さらに中央通りに面しているという立地の良さを誇ります。

新オフィスの専有面積は、首都圏における情報発信力を高めるため、598m² (181坪) と旧オフィスの2倍の規模となっています。これに伴い、セミナー室 (104名) や会議室 (24名) を拡充して大人数での利用に対応できるようにする

とともに、新たにラウンジを設け映像や書籍・パンフレットなどにより来訪者に同志社をアピールするギャラリーを併設しています。また、就職活動で利用する学生からの要請を踏まえ、休憩するためのリラクゼーションスペースとしての畳エリアも設けました。

5月21日には開所式が開催され、第一部は「開所の集い」(礼拝)、第二部は村田晃嗣学長による記念講演会とともに立食懇談会が催されました。

機能性を一層向上させた新オフィスは、教職員、学生、校友の皆様にとって、首都圏での活動の拠点となっていくことが期待されています。



東京オフィスのエントランス・ラウンジ

ハイライト ② 教育

京都大学と単位互換協定、法科大学院間で相互支援・連携へ

2015年1月13日、同志社大学と京都大学との間で、単位互換協定を締結しました。さらに、法科大学院教育の一層の充実を目的として、双方の法科大学院間で相互支援・連携の実施に関する覚書を取り交わしました。

京都大学で執り行われた調印式では、両大学の関係者が列席するなか、京都大学の山極壽一総長と本学の村田晃嗣学長が協定書に、京都大学大学院法学

研究科の山本克己研究科長と本学大学院司法研究科の占部裕典研究科長が覚書にそれぞれ署名をし、取り交わしました。

13年7月に政府の法曹養成制度関係閣僚会議で決定された「法曹養成制度改革の推進について」を受け、文部科学省は同年11月に「法科大学院の組織見直しを促進するための公的支援の見直しの更なる強化について」を公表し、先

導的な教育システムの構築や教育プログラムの開発、質の高い教育提供を目指した法科大学院間の連携・連合など、優れた取り組みに対しては補助金を加算することとしており、今回の両法科大学院間の相互支援・連携に関する取り組みが高く評価されました。

京都大学との協定書および覚書により、2015年度から一定の範囲内で、本学法科大学院生が京都大学法科大学院の法律基本科目や選択科目 (15年度は5科目) を受講できるようになるとともに、京都大学法科大学院生が本学法科大学院の外国法関連科目 (15年度は2科目) を受講できるようになります。また、今後は、海外のロースクールへの留学促進や、法科大学院を修了して法曹となった者などに対するリカレント教育 (継続教育) プログラムの開発・実施に関する連携についても両法科大学院間で検討を進めていきます。

このような各法科大学院の強みを活かした法科大学院間の支援・連携は、法科大学院における先導的な取り組みであるとともに、より魅力ある法曹の養成につながるものであり、法曹養成機関である法科大学院にとってきわめて意義のあるものと考えています。



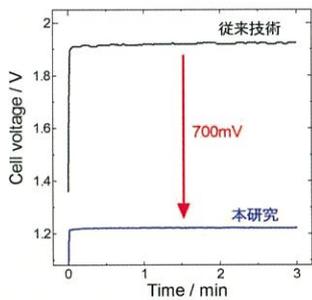
京都大学で執り行われた調印式

ハイライト ③ 研究

革新的なレアメタル・ベースメタルの製造技術の事業化に成功

理工学部環境システム学科の盛満正嗣教授は、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）研究成果展開事業スーパークラスタープログラムにおいて、レアメタルやベースメタルの製造方法として、省電力と低環境負荷を同時に実現できる革新的な電解採取法を開発し、その核となる電解採取用陽極の事業化と電解採取プラントでの実用化に成功しました。

レアメタルやベースメタルは、リチウムイオン二次電池やニッケル水素二次電池のほか、SiC（炭化ケイ素）などのパワーデバイスが利用される電化製品、



銅電解採取における電解電圧の比較

電気自動車、送電システムなどで幅広く利用されています。これらの金属は鉱石中に含まれており、金属として取り出すために電解採取法による製造が行われてきました。しかし、この方法は大量電力を消費し、また電解を行う際に金属汚泥を発生するといった技術的課題が残っていました。

こうした課題を解決できる新たな材料として、熱分解法により触媒活性の高い酸化ナノ粒子を触媒活性の低い非晶質酸化物中に均一に分散したハイブリッド構造を有する触媒の開発に世界で初めて成功しました。また、この触媒を備えた新たな電解採取用陽極とこれを用いる電解採取法に関する特許を国内外で取得しました。

さらに、これらの特許を米国のOutotec USA社にライセンスし、実際の電解採取プラントに用いるメートルサイズの陽極の製造を行うとともに、その評価を様々な電解採取プラントで行ってきました。その結果、従来に対して最大

で36%の電力削減が可能であるとともに、金属汚泥が抑制されることを実証し、Cobre del Mayo社の銅電解採取プラントなどへの導入に成功しました。

この成果は、過去100年以上に及ぶ金属製造技術に革新的な進歩をもたらす、世界16カ国で本研究による電解採取用陽極および電解採取法への全面的な転換が進められています。また、これまで廃棄物処理されていた金属汚泥や都市鉱山と呼ばれている廃電化製品などからの有価金属の回収にも利用可能であり、これまでの金属製造プロセスを一新する技術として期待されます。



実用化した電解採取用陽極の例

ハイライト ④ 地域社会への取り組み

京都「老舗講座」を全4回にわたって東京で開催

朝日新聞社との共催、文化庁および京都府、京都市の後援により、同志社大学 京都「老舗講座」を東京（会場はJPタワー ホール&カンファレンス）で、4回（2015年1月9日～2月24日）にわたって開催しました。

日本文化の拠点・京都で、同志社大

学は140年の歴史を歩んできました。京都の老舗で伝統産業を受け継ぐ方々とも深いゆかりがあります。今回の講座では、創業以来守り続けてきた志や思い、さらには時代の変遷とともに取り組んできた新たな試みについて、4名にお話しいただきました。ご登場いただ

いた4名の方々は、いずれも本学と京都に深いゆかりをお持ちです。

テーマはそれぞれの回で「旅館」「料亭」「織」「香」を設定。来場者の方々には、日本文化とその文化の中心としての京都、そしてその魅力を感じていただきました。



暖簾（のれん）という言葉の重みを説明した柊家六代目女将の西村明美氏



京都の食文化について分かりやすく説明した瓢亭十四代当主の高橋英一氏

	開催日	テーマ	講師
第1回	2015年 1月9日	旅館	柊家六代目女将 西村明美氏
第2回	2015年 1月20日	料亭	瓢亭十四代当主 高橋英一氏
第3回	2015年 2月13日	織	株式会社細尾社長 細尾真生氏
第4回	2015年 2月24日	香	株式会社松栄堂社長 畑正高氏

同志社女子大学

国際感覚豊かな人物の育成に向けて 留学制度、課外講座を拡充



DATA	■ 創立	1876年
	■ 所在地	〒610-0395 京都府京田辺市興戸南鉾立97-1 TEL: 0774-65-8411 〒602-0893 京都市上京区今出川通寺町西入玄武町602-1 TEL: 075-251-4111
	■ URL	http://www.dwc.doshisha.ac.jp/



同志社女子大学
かがひろお
加賀裕郎 学長

2011年に「同志社女子大学の将来構想に向けた方針・方策」を策定・公表し、その実現に努めてきました。大きな事業の一つは今出川キャンパスの総合的整備事業で、その最初の成果として主に食物栄養科学科が使用する新心館が2015年夏に完成を予定しています。もう一つの大きな事業は看護学部看護学科の開設で、看護学部関連棟の蒼苑館が15年2月に完成し、新しい教育研究が始まりました。また、女子教育の質の一層の充実に向け、かねてからの懸案であった女性アクティベーションセンターとボランティア活動支援センターが立ち上ります。

今後はまず向こう10年間の長期的ビジョン「Vision2026」の策定に尽力します。その中心には、女子教育のさらなる推進のために「ケア」に関わる教育・研究、地域社会との連携、アクティヴ・ラーニングの推進、アジアに目を向けた国際化が位置づけられることになるでしょう。

同志社女子大学は、「キリスト教主義」「国際主義」「リベラル・アーツ」の三つの教育理念を礎に、良心を以て知識と能力を運用し、社会の礎となって活躍する自立した女性を育むことを目指しています。

セメスター語学留学制度を拡大 課外講座を開設

国際交流センターでは、グローバル人材育成の一環として、様々なプログラムを開設しています。2014年度は、セメスター語学留学制度を拡大するとともに、新たに課外講座として「海外留学準備セミナー」と「留学英語基礎講座」を開設しました。

セメスター語学留学制度は、13年度秋学期に開設した1学期間の留学プログラムです。語学力の向上を図るとともに、留学先国の文化・社会の理解を深めることを目的としています。14年度からは、秋学期留学に加え春学期留学を開設するとともに、留学先もメリルハースト大学（米国オレゴン州）の

ほかにマニトバ大学（カナダ・マニトバ州）を加えて、派遣人数を年間10名から20名に増やしました。

海外留学準備セミナーは、協定大学留学や国際教養留学などの出願に必要なTOEFL iBT®とIELTS™の攻略法、留学制度の説明や留学体験報告、日本や世界の宗教に関する基礎知識、英語による京都や日本の紹介の仕

方などをテーマに毎週1回、計12回（1学期間）で構成しています。

留学英語基礎講座は、米国の大学内の留学生向け英語研修（ESL: English as a Second Language）を、京田辺キャンパスで開講するというものです。留学に向けて英語学習を始めたい学生や、ネイティブ講師の授業を受けてみたい学生など、意欲的な学生を対象と

入学定員、入学者数、収容定員、在学生数（2014年5月1日現在）

学部・研究科名	入学定員	入学者数	収容定員	在学生数
学部				
学芸学部	315	360	1,280	1,469
現代社会学部	400	453	1,620	1,843
薬学部	120	139	720	828
表象文化学部	290	339	1,180	1,344
生活科学部	215	237	860	997
合計	1,340	1,528	5,660	6,481
研究科				
文学研究科	31	14	70	31
国際社会システム研究科	10	3	20	5
薬学研究科	4	0	12	3
生活科学研究科	13	6	26	13
合計	58	23	128	52
専攻科				
音楽専攻科	20	15	20	16
合計	20	15	20	16
総計	1,418	1,566	5,808	6,549

教員数、職員数（2014年5月1日現在）

教員数			職員数			教職員数
専任教員	嘱託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計	総計
174	534	708	76	78	154	862

しています。英語熟達度レベル別にクラスを編成し、毎週2回、計24回(1学期間)にわたって授業を行っています。

これら課外講座はいずれも年2回、春・秋の両学期に開講しています。講座の受講を通して、本学での学びがさらに広がることを期待しています。

国家試験対策の強化 就職状況も好調

国家試験対策の強化も図っています。薬学部医療薬学科は、15年3月卒業生110名全員が第100回薬剤師国家試験を受験し、そのうち81名が合格、合格率は73.6%でした。全国平均72.7%、私立大学平均71.7%を上回り、近畿圏内12私立大学のうち4位の成績となりました。生活科学部食物栄養科学科管理栄養士専攻では、14年3月卒業生80名全員が第28回管理栄養士国家試験(14年3月実施)を受験し、全員が合格しました。2年連続で合格率100%を記録しています。

14年度の就職状況は、就職希望者1,219名(就職希望率82.9%)に対し、就職決定者は1,186名となり、就職決定率は97.3%となりました(15年3月31日現在)。

今出川キャンパス整備事業と 看護学部関連棟の建設

耐震化への対応を含む安心・安全なキャンパスの実現、合理的で機能的なキャンパス整備を目指して、13年度から今出川キャンパス整備工事を進めています。旧・新心館の解体・撤去、埋蔵文化財の発掘調査完了後、14年7月に新・新心館の起工式を行い、建設工事を開始しました。竣工は15年8月の予定で、現在既存の建物に点在している生活科学部食物栄養科学科の関連諸室が集約され、配置されます。

京田辺キャンパスでは、看護学部の15年4月開設に向けて看護学部関連棟「蒼苑館」の建設を進めました。蒼苑館は、看護学の専門分野ごとの実習室だけでなく、プラクティカル・サポート・

センターなどを設置し、自主学習を支援する体制を整えています。

認証評価適合判定を受け さらなる充実を図る

14年度に大学基準協会の大学評価(認証評価)を受け、同協会の大学基準に適合しているとの認定を受けました。また、薬学部は、薬学教育評価機構の6年制薬学教育プログラムを対象とした薬

学教育評価を受け、評価基準適合の認定を受けました。いずれも認定期間は15年4月1日から22年3月31日までです。

15年度(2015年度4月入学)の出願状況は、一般入試志願者数(センター利用入試を含む)は1万347名(前年比2.7%減)、その他の入試の志願者数は4,351名(前年比5.9%増)でした。今後も堅調な財政状況を維持しつつ、教育・研究のさらなる充実を図ります。

同志社女子大学2014年度の事業実績

区分	事業	内容補足
教学組織変更・定員改正	看護学部看護学科設置認可申請	入学定員80名、収容定員320名。10月31日認可
教職員採用	専任教員6名、特別契約教員(Contract Teacher)2名、特別任用助教1名、特別任用助手1名、専任職員4名	
教育・研究	英語英文学科カリキュラム改正	2014年度入学生より適用
	セメスター語学留学制度拡大	対象学期を秋学期から春・秋学期に、募集人数を10名から20名に拡大
	海外留学準備セミナー開設	TOEFL、IELTSのテスト対策や、日本人留学生として知っておくべき知識の習得を目指す課外講座を開設
	留学英語基礎講座開設	海外研修や留学に向けた基礎英語の習得を目指す課外講座を開設
	英語統一試験(TOEIC-IP)実施	国際教養学科・英語英文学科を除く全学科1年次生を対象に、英語統一試験(TOEIC)を実施
	「私立大学等教育研究活性化設備整備事業」補助金採択	両キャンパス、計5教室についてグループワークのためのアクティブ・ラーニング環境整備事業が採択
	情報環境の整備充実	一般教室、自習室(AVⅢPC25台)のシステムリプレイス
入試制度	教職課程認定申請	養護教諭一種免許状課程(看護学部看護学科)2015年2月4日認定
	新学習指導要領実施に伴う入学試験の実施	「数学」および「理科」の先行実施に伴う試験教科・科目名および出題範囲の設定と旧課程科目履修者への経過措置の対応
	教育連携特別推薦入学試験に新規1校を追加募集	「奈良県立奈良北高等学校」を含む全15高等学校対象
学生支援	京都聖母学院高等学校「同志社女子大学クラス」生徒対象の推薦入学試験を実施	「同志社女子大学クラス」1期生2015年4月入学
	看護学部看護学科設置に伴う入学試験(初年度)の実施	推薦入学試験S、一般入学試験(前期日程・後期日程)、社内校・協定校推薦入学試験
	大雨、突風、暴風雪等による被害に伴う学費等減免措置の実施	災害救助法適用地域被災者に該当する受験生、新入生、在学生に対して減免を実施
財政	課外プログラム実施	サマーキャンプ、会津若松・安中・函館ツアー、スプリングキャンプ
	100円朝食の提供	秋学期より、学生の食生活サポートのため100円朝食を提供
	第2号基本金組入	キャンパス施設設備整備充実資金10億円
その他	第3号基本金組入	教育研究充実基金4,000万円
	募金事業	教育研究条件整備資金募金、キャンパス総合整備資金募金
	「同志社女学校草創期と新島八重」関連事業	「新島八重研究会」による新島八重研究会講演集、「新島八重×同志社女子大学コラム集」の発行
	「同志社女子大学の集い2014」開催	東京(6月7日)、浜松(6月8日)、福井(7月6日)、大分(9月13日)、広島(9月14日)。5会場で約250名参加
	「ホームカミングデー2014」開催	京田辺キャンパス(11月9日)にて、卒業生など約500名参加
	同志社女子大学看護学部開設記念シンポジウム開催	大阪ビジネスパーク円形ホールにて11月23日に基調講演(鳥越俊太郎氏(ジャーナリスト))他のプログラムで開催
	同志社女子大学史料室の企画展開催	第19回企画展「真実×愛心×以てー同志社女学校、同志社病院・京都看護婦学校」開催。2015年7月31日まで
	学術交流などに関する包括協定の新規締結	宗教法人在日本南プレスビテリアンミッション淀川キリスト教病院との学術交流などに関する包括協定締結
	認証評価	大学基準協会へ申請。2015年3月20日付、適合判定
	薬学教育評価「平成26年度本評価」	薬学教育評価機構へ申請。2015年3月10日付、適合判定
節電への取り組み	5月19日～9月30日、11月7日～2015年3月31日の間に実施	

施設設備整備事業の内容

事業	内容補足	事業期間	事業費	財源
今出川キャンパス	今出川キャンパス整備事業(耐震対応含)に係る新心館建設他	2011年度～2017年度	総事業費58億円のうち8億9,415万円	第2号基本金
	図書館 ガス吸収式冷温水機オーバーホール・高圧引込配管改修	2014年度	551万円	学生生徒等納付金
京田辺キャンパス	蒼苑館(看護学部関連棟)建設	2013年度～2014年度	総事業費25億円のうち22億1,906万円	第2号基本金、学生生徒等納付金
	エネルギー棟 加圧給水ポンプ更新	2014年度	1,012万円	学生生徒等納付金
	汚水管・汚水樹改修	2014年度	629万円	学生生徒等納付金

同志社女子大学2014年ハイライト

ハイライト ① 学生の健康管理

学生の食生活を支援する「100円朝食」

学生の食生活を支援する取り組みの一環として、2014年秋学期から学内の食堂で「100円朝食」の提供を開始しました。

試行期間として2014年7月に1カ月間実施したところ、京田辺・今出川両キャンパスあわせて1日平均約200人の利用があり、アンケート調査でも継続の要望が多かったことから、本格的に開始することとなりました。

メニューは、ごはん、味噌汁に加え、小鉢3品を選ぶ方式となっています。小鉢の種類は1日平均15品で、焼き魚、煮物、生野菜、デザートなどを日替わりで提供しています。

実施にあたっては、同志社女子大学栄光会（保護者の会）、同志社女子大学学生会による財政援助をいただきましたが、2015年度は同志社女子大学同窓会《Vineの会》ならびに同志社同窓



100円朝食で正しい食習慣を

会にもご支援いただきます。

この企画により、正しい食習慣をベースに、学生が自主的に健康管理を行えるようになることを願っています。

ハイライト ② 国際社会での評価

カーペンター教授が翻訳活動で相次ぎ受賞

ジュリエットW.カーペンター特別任用教授（表象文化学部英語英文学科）による翻訳活動に対して、国内外から数々の賞が贈られました。

一つは、水村美苗著『本格小説』を翻訳した *A True Novel* に対する受賞で、2014 Lewis Galantière Award、2014-2015 Japan-U.S. Friendship Commission Prize for the Translation of Japanese Literature、2014 Next Generation Indie Book Awards 小説

部門グランプリ、2014 Best Translated Book Awards 小説部門準賞の四つの賞に輝きました。もう一つは、同教授が翻訳者の一人として関わった司馬遼太郎著『坂の上の雲』の翻訳 *Clouds above the Hill* を出版した日本文学出版が日本翻訳出版文化賞（NPO法人日本翻訳家協会）に選ばれました。

このうち Japan-U.S. Friendship Commission Prize は、1980年の *Secret Rendezvous*（安部公房著『密会』の翻



受賞した翻訳書を手にするカーペンター教授

訳)での受賞に次ぐ2度目の受賞になります。カーペンター教授がこれまでに手掛けた翻訳は、俵万智著『サラダ記念日』をはじめ50作品以上を数えます。

ハイライト ③ 新学部開設

看護学部開設記念シンポジウムを開催

2014年11月23日、大阪ビジネスパーク円形ホールで同志社女子大学看護学部開設記念シンポジウム「いのちと向き合う、看護のこれから」を開催しました。まず基調講演では、講演者としてジャーナリストの鳥越俊太郎氏を招き、「がん患者になって分かったこと—看護・医療に求められるもの—」と題してお話いただきました。自らががんを患い4度の手術を受けられた体験から、患者の目線に立って実践する

看護の重要性を力説されたのが印象的でした。

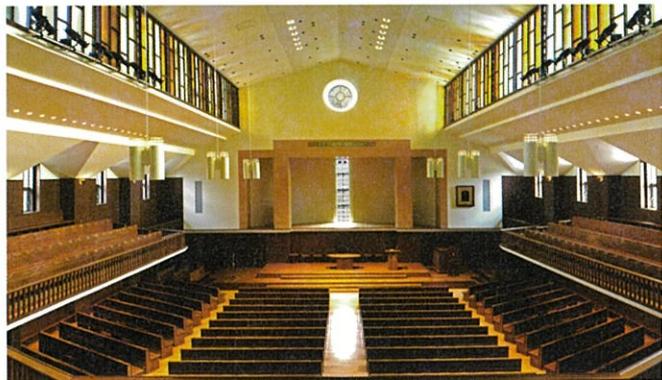
続いて、パネルディスカッションでは、「今こそ、看護のチカラ—原点とこれからを考える—」をテーマに鳥越氏、川嶋みどり氏（日本赤十字看護大学名誉教授）、岡山寧子教授（看護学部長、当時は就任予定者）、才藤千津子准教授（現代社会学部）が、森公一教授（学芸学部）のコーディネートにより議論を重ねました。超高齢社会を迎える中



鳥越俊太郎氏は患者の立場に立った看護を力説

で看護の現状と課題を確認し合い、看護の原点に立ち返るとともに、今後の看護やその教育について意見を交換しました。来場者は約520名で盛況のうちに終了しました。

同志社中学校・高等学校



「真理を求め善をなせ」に
込められた志を新たに、
良心教育の前進を



同志社中学校・高等学校
木村良己校長

同志社は、画一化したロボットのような人材を生産する「教育工場」ではありません。「人の幸せを願い、人の不幸を悲しむことのできる人間」として、人類の利益となる学問を深める「知的創造空間」です。創立者・新島襄の「SEEK TRUTH AND DO GOOD（真理を求め善をなせ）」という言葉に込められた志を新たに、「良心を手腕に運用する人間」が育つ教育空間を創出する、その基本的方向性に揺らぎは全くありません。

- 創立 1875年
- 所在地 〒606-8558 京都市左京区岩倉大鷲町89
TEL：075-781-7121
- URL <http://www.js.doshisha.ac.jp/>

グローバル時代に対応する教育を

2014年度も自主性を重んじ、知的好奇心、探究心を高める「同志社人」に期待される人間力の育成に努めました。

中学では、京都大学iPS細胞研究所訪問をはじめ50を超える「同中学びプロジェクト」を展開し、中学新入生全員にiPadを導入しました。高校では、各界で活躍する方々の志に出会う「パワーアップ・セミナー」「ようこそ先輩IWAKURA版」を実施。JICA職員としてネパールで道路プロジェクトに従事した方のお話など、人生の力となる学びの機会となりました。

中学では、ヌエバ（米国）、ベツレヘム（ニュージーランド）でのホームステイ語学研修に加え、ターム留学を含む海外研修プログラム、イングリッシュキャンプなどバラエティーに富んだプログラムを実施。高校では、ウェスリーカレッジへの派遣・受け入れを8名から12名に増員し、ハワイ・プナホウスクールへの派遣、15年度から各国の留学生を受け入れ、本校を国際交流の舞台とする「エンパワーメント・プログラム」を実施予定です。

15年度入学者の入試実績は、中学の一般入試は志願者437名で、学内進学生徒と合わせて入学者は294名。高校は一般入試と推薦入試の合計で324名の志願者があり、学内進学生徒を合わせて355名の新入生を迎えました。

同志社中学校・高等学校2014年度の事業実績

区分	事業	内容補足
教職員採用	専任教員 2名採用	前年度退職者補充(社会科1名、英語科1名)
教育・研究	土曜日特別補講	高校2年生対象(数学・英語)、高校3年生対象(化学・生物)
	短期交換留学	オーストラリア・ウェスリーカレッジへ12名派遣および12名受け入れ(高校)
	短期留学	ハワイ・プナホウスクールへ1名派遣(高校生)
	パワーアップセミナー	高校生対象「特別企画」(将来展望・進路開拓)
	研究誌発行	彰栄37号別冊「教育・研究実践」(中学校)
学生生徒支援	国際交流プログラム	ヌエバスクール受け入れ(5名)・派遣(6名)、ニュージーランドホームステイ語学研修(18名)、韓国・台湾学校訪問研修受け入れ10名、派遣15名(中学生)
	奨学金の実施	給付：四方秀和奨学金(2名)、同志社高等学校特別奨学金(2名)、同志社校友会奨学金(1名)、同志社中学校新島会奨学金(6名)、同志社中学校司鐘奨学金(1名) 貸与：同志社高等学校学資貸与金(2名)、あんしん修学支援奨学金(106名)、同志社中学校桑の実貸与奨学金(2名)
	四方秀和奨学生に対する奨学金加算給付措置	京都府の私立高等学校あんしん修学支援事業導入に伴い、四方奨学生に対し特別奨学金から教育充実費相当額を加算給付
財政	第2号基本金組入計画	教学施設整備資金(南体育館・付属棟建替事業) 2013年度～2017年度まで毎年度2億円を組入予定 組入総額10億円

施設設備整備事業の内容

事業	内容補足	事業期間	事業費	財源
校地整備	東グラウンド更衣室整備	2013年度～2014年度	約2,230万円	第2号基本金、学生生徒納付金、寄付金
校地整備	北東校地更衣室整備	2013年度～2014年度	約2,900万円	第2号基本金、学生生徒納付金、寄付金
校地整備	交流グラウンド防球ネット工事	2014年度	約260万円	学生生徒納付金、寄付金
ICT教育設備整備	中学生用iPadネットワーク環境整備事業	2014年度	約1,500万円	学生生徒納付金、国庫補助金
太陽光発電設備	雄飛館太陽光発電増設工事	2014年度	約930万円	学生生徒納付金、寄付金
立志館校務センター	校務センター改修工事	2014年度	約410万円	学生生徒納付金、寄付金
北東校地整備	しらすぎ会館改修工事	2014年度～2015年度	約4,880万円	学生生徒納付金、寄付金
北東校地整備	北東校地倉庫棟新築工事	2014年度～2015年度	約1,320万円	学生生徒納付金、寄付金
パイプオルガン設置		2014年度～2016年度	約1億円	特定支出準備金

入学定員、入学者数、収容定員、生徒数(2014年5月1日現在)

	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
中学校	288	293	864	877
高等学校	360	366	1,080	1,103
合計	648	659	1,944	1,980

教員数、職員数(2014年5月1日現在)

教員数			職員数			教職員数
専任教員	嘱託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計	総計
87	55	142	11	16	27	169

同志社香里中学校・高等学校



グローバル化への
第一歩を
力強く踏み出す



同志社香里中学校・高等学校
ふくだ こうじ
福田耕治 校長

同志社香里の教育は、確かな学力を育むことを根幹に据えています。学ぶ力があって初めて、未来を主体的に切り開いていけるからです。そのうえで、人の痛みを知り、自らの力を世の中のために役立てられるよう、心の教育に力を注いでいきます。これによって、個性豊かな仲間がたくさんできて、学校に来るのが楽しくなり、勉強にもいっそう興味が湧いてくる。そんな教育を実践するのが私の一番の目標です。

DATA	■ 創立	1951年
	■ 所在地	〒572-8585 大阪府寝屋川市三井南町15-1 TEL: 072-831-0285
	■ URL	http://www.kori.doshisha.ac.jp/

模擬裁判選手権で初優勝

2014年8月、日本弁護士連合会主催の「高校生模擬裁判選手権関西大会」で本校のチームが優勝しました。模擬裁判選手権は架空の事件を題材に、各校が弁護側・検察側に分かれ、その論理の整合性や説得力、表現力などが総合的に判断される大会です。参加者は全校から募集した15名で、夏休み前から支援弁護士や教師のサポートを受け、大会直前の7月末には合宿を実施しました。こうした成果が実り、大会当日は安心感のある試合運びを展開し、見事優勝校に選ばれました。

入試委員会が入試部に昇格

成績の優秀な生徒を安定的に確保するため、入試委員会を入試部に昇格させました。少子化が進む中での一定の受験者数の確保は、その成果です。

課外活動

中学・高校とも活発で、レスリング部とスキー部は全国大会に出場、高校ダンス部は全国大会3連覇は逃しましたが準優勝しました。

中学海外交流プログラムやアドバンス講座、キャリア教育などは例年通り実施しました。また、異文化に対する理解を深める国際交流イベント「The Small Planet2014」に、高校生全員と中学生の希望者が参加しました。11月

には中学1年生を対象に、寝屋川市福祉協議会・ボランティア団体による車椅子体験学習を行いました。

15年度入試の結果は、中学校が志願者1077名、合格者429名で、高校は志願者68名、合格者数68名でした。

同志社香里中学校・高等学校2014年度の事業実績

区分	事業	内容補足
教学組織変更・定員改正	入試部の発足	入試委員会を廃止し、入試部を立ち上げ。主任1名副主任2名。これに伴い、宗教部、生徒部の副主任を各1名減
教職員採用	専任教員 1名 採用 専任職員 1名 採用	数学科1名 事務室職員1名
教育・研究	海外交流プログラム	アメリカ・ボストン フィリップスアカデミーサマーセッション(37日間、高校生1名)、オーストラリア・アデレード語学研修プログラム(17日間、高校生23名、中学生7名)、アメリカ・ハワイ プナホウスクール SGLI(14日間、高校生1名)、オーストラリア・ピンブルレイティースカレッジ短期留学プログラム(31日間、高校生1名)、アメリカ・ボストン校交流プログラム(11日間、高校生11名、中学生29名)、アメリカ・サンフランシスコ ヌエバスクール交流プログラム(9日間、中学生6名)
	国際交流イベント The Small Planet 2014	12月13日実施。異文化理解と交流、高校生全員と中学生希望者参加
	アドバンス講座	主に土曜・木曜に、国公立大学などを目指す生徒を対象に、外部講師を招き、英数国3科目の講義を実施。全25回
	キャリア教育	年間を通じて、中学3年生のリベルタスの時間に、様々な分野で活躍する社会人講師を招き、実践的キャリア教育を実施
	人権アッセンブリー	12月8日実施。手話ダンスパフォーマンスによる人権教育。中学3年生と高校生全員参加
	福祉体験授業	11月10日、11日に、中学1年生を対象に、寝屋川市福祉協議会・ボランティア団体による車椅子体験学習を実施
入試制度	中学前・後期日程実施	後期日程導入4年目
学生生徒支援	同志社香里高等学校就学支援奨学金 学内奨学金(給付制)	大阪府の就学支援推進校指定に伴う授業料負担分 同志社香里奨学金・PTA奨学金・校友会奨学金
財政	創立60周年記念事業募金	募金最終年度
その他	ホームページのリニューアル	現状に則した情報への更新と積極的な情報発信のための全面リニューアル
	オープンキャンパス・体験授業	オープンキャンパス6月2回・9月1回実施。体験授業6月2回実施
	クリスマスセレブレーション	12月13日実施。地域住民との交流イベント
	わくわくサイエンスデー	7月20日実施。寝屋川市内の小中学生向け理科体験授業

施設設備整備事業の内容

事業	内容補足	事業期間	事業費	財源
学内サーバーリプレイス	学内サーバーの取り替え更新	2015年3月	1,144万円	学生生徒納付金

入学定員、入学者数、収容定員、生徒数(2014年5月1日現在)

	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
中学校	240	248	720	740
高等学校	315	307	945	917
合計	555	555	1,665	1,657

教員数、職員数(2014年5月1日現在)

教員数			職員数			教職員数
専任教員	嘱託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計	総計
65	48	113	8	1	9	122

同志社女子中学校・高等学校



建学の精神である
奉仕の精神を養う
女子教育を實踐



同志社女子中学校・高等学校
つしむら よしみ
辻村 好 校長

開学以来、キリスト教の女学校としての歴史を持つ本校は、今も教育の根幹に奉仕の精神が強く息づいています。福祉教育や平和教育で生徒たちは、障がいを持つ人や戦争体験者から直にお話を聞き、テレビなどのメディアでは学べないものを深く感じ取っています。このような教育を継続することにより、人のために尽くす豊かな心を養い、「地の塩」「世の光」を實踐する女性(ひと)へと大きく成長しています。

■創立	1876年
■所在地	〒602-0893 京都市上京区今出川通寺町西入玄武町602-1 TEL : 075-251-4305
■URL	http://www.girls.doshisha.ac.jp/

新・国際交流プログラムを導入

2014年度、新たな国際交流プログラムを導入し、アメリカの名門女子大学スミスカレッジでのサマープログラムに5名の高校生を派遣しました。語学研修を超えた教育内容になっており、テーマに沿って自ら課題を見つけ、考察を深め、英語で討議する形の研修を通して、参加者は貴重な経験をえました。

本校卒業生によるマン・ツー・マンの指導を受けられるチューター制度を中学校に導入してから5年目を迎え、追跡調査を行ったところ、基礎学力の強化に大きな効果が表れていました。

中学生を対象にした14年度の人権福祉講演会では、中途失明された方を講師に招きました。人生の途中で視力を失った苦しい体験を直にお聞きし、どのような援助を必要とされるかを知ることができました。

新校舎の建設工事が本格化

新校舎建設については、8月に埋蔵文化財発掘調査が終了し、本格的な工事が開始されました。16年1月末に完成予定です。

中学の一般入試前期の合格発表はこれまで試験日の3日後に実施していましたが、受験生に配慮して翌日に発表を行いました。15年度の入試実績は、中学は志願者総数735名、合格者488名で、高校は定員約20名に対し合格者24名でした。

同志社女子中学校・高等学校2014年度の事業実績

区分	事業	内容補足
教職員採用	専任教員6名	国語科、数学科、社会科、英語科、音楽科、養護 各1名
教育・研究	国際交流プログラム	イギリス語学研修(高校)モバンカレッジへ30名(16日間)、オーストラリア語学研修(中学)シドニーセントレオズカレッジへ26名(13日間)、アメリカ・ニューバ校との交流(中学)派遣6名(9日間)・受け入れ5名(8日間)、ハワイ プナホウスクールSGLIプログラム(高校)派遣1名(15日間)、アメリカ・スミスカレッジサマープログラム(高校)派遣5名(10日間)
	TOEIC受験	高校1年生 Bridge、2年生 Bridge、IP、3年生IP
	新入生交流プログラム	中学1年生修養会(2泊3日 ユニピア篠山)
	宗教交流プログラム	中学2年生・3年生修養会、高校修養会(希望者1泊2日 琵琶湖トリートセンター)
	平和教育	長崎修学旅行(中学2年生2泊3日)、沖縄修学旅行(高校2年生3泊4日)
	福祉教育	人権福祉講演会(中学)、花の日福祉施設訪問、高齢者福祉講演会・施設訪問、車椅子バスケット体験・交流授業(高校) 収獲感謝の日福祉施設訪問、国立療養所多磨全生園(元ハンセン病患者療養所)訪問(高校希望者1泊2日)
	芸術鑑賞	京都市交響楽団 音楽鑑賞(全校生)、狂言鑑賞、中国楽器鑑賞(中学1年生)
	チューター制度	本校卒業生の指導による中学生の英語・数学の学力向上
入試制度	中学 前・後期日程実施	後期日程導入4年目(志願者 前期:281名 後期:454名)
学生生徒支援	奨学金制度	同志社女子中学校・高等学校奨学金(給付3名、貸与3名)
	修学支援事業	あんしん修学支援奨学金事業(給付80名)
	クラブ活動費補助	全国大会など学校が認めた行事への活動費補助を強化
財政	第2号基本金組入・取崩	第2号基本金1億5,000万円を組み入れ、10億8,000万円を取り崩し(新校舎建設、耐震改修)
	特定支出準備金繰入	教育機器整備費2,000万円を繰り入れ
その他	オープンキャンパス・体験授業	小学5、6年生、父母など参加

施設設備整備事業の内容

事業	内容補足	事業期間	事業費	財源
教育環境整備	静和館ホールA Vシステム更新	2014年度	886万円	学生生徒等納付金、補助金
校地整備	埋蔵文化財発掘工事、新校舎建設工事	2012～2016年度	11億5,883万円(2014年度分)	学生生徒等納付金、第2号基本金
校地整備	新生館耐震工事	2014年度	4,261万円	学生生徒等納付金、第2号基本金、補助金
校地整備	埋蔵文化財調査	2014年度	1,622万円	学生生徒等納付金
校舎維持整備	新生館屋根改修工事、新生館外壁工事、新生館ガラスシーリング工事(全面フィルム貼)	2014年度	4,719万円	学生生徒等納付金

入学定員、入学者数、収容定員、生徒数(2014年5月1日現在)

	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
中学校	240	248	720	744
高等学校	270	275	810	813
合計	510	523	1,530	1,557

教員数、職員数(2014年5月1日現在)

教員数			職員数			教職員数
専任教員	嘱託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計	総計
63	43	106	8	5	13	119

同志社国際中学校・高等学校



DATA	■ 創立	1980年
	■ 所在地	〒610-0321 京都府京田辺市多々羅都谷60-1 TEL : 0774-65-8911
	■ URL	http://www.intnl.doshisha.ac.jp/

多様な文化を受け入れ
世界の舞台で活躍できる
人物を養成



同志社国際中学校・高等学校
川井国孝 校長

関西地区で初の帰国生徒受け入れ校として開校した本校では、帰国生徒と一般生徒がともに学ぶ中で、互いに認め合い、尊重し合う精神の涵養を重視しています。基礎的な学力を付けることはもちろん、多様な文化を理解し、そしてそれを尊重し、自らの意見もしっかり主張できる。そういう力を兼ね備え、将来グローバルな社会で活躍できる人物を育成するのが、私たち教職員全員の使命であると考えています。

2014年、本校は文部科学省からSGH（スーパーグローバルハイスクール）アソシエイト校の指定を受けました。3月に開催された世界レベルの課題解決型競技「グローバル・エンタプライズ・チャレンジ2014」では、高校生7名で編成したチームが1位入賞を果たし、日本代表としてドイツで行われた世界大会に出場。「OECDプログラムinパリ」では、OECD本部で開かれた国際会議で、本校の生徒代表が2030年の教育をイメージした新しい学校の案を英語でプレゼンテーションしました。

15年度から、国際学院初等部の卒業生が本校に推薦入学するのに合わせ、中学の定員を増員するため、14年度は校舎の増築や既存の施設の改修など、教学施設の整備に当たりました。

入試方法の変更

中学校の国内一般生徒の入試日を例年より遅くすることで、より多くの子どもたちが受験できるようにしました。高等学校の帰国生徒の入試については、語学資格で受験できる言語に、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、韓国・朝鮮語を追加しました。

15年度入学者の入試実績は、中学校は志願者が376名（海外帰国生徒80名、国内一般生徒296名）で、合格者は113名（海外帰国生徒53名、国内一般生徒60名）。高校は志願者が381名（海

外帰国生徒286名、国内一般生徒95名）で、合格者は201名（海外帰国生徒138名、国内一般生徒63名）でした。

中学校の国内一般生徒の入試日を変更したことで、志願者が昨年度の56名から5倍強も増加したのが特徴です。

同志社国際中学校・高等学校2014年度の事業実績

区分	事業	内容補足
教職員採用	数学科専任教員 1名	前年度退職者補充
	国語科専任教員 1名	前年度退職者補充
教育・研究	スーパーグローバルハイスクール・アソシエイト校としての取組	グローバル化社会で活躍できる人材の育成
	国際バカロレア (IB) についての研究	IB教育の良い点を本校教育に活用するための研究
	国際交流プログラムの実施 (海外短期研修)	ザ・ヌエバ・スクール交換プログラム (中学生6名)、ヌエバ・スクール・サマー・キャンプ (中学生7名)、フィリップス・アカデミー・アンドーバー・サマーセッション (高校生6名)、サマープログラム・イン・アーモスト・カレッジ (高校生15名)、メンロスクール交換プログラム (高校生1名)、ハーバード大学サマースクール (高校生1名)、Izalde交換プログラム (高校生12名)、EABJM研修 (高校生14名)、OECDプログラム (高校生16名)
	国際交流プログラムの実施 (留学生受け入れ)	ザ・ヌエバ・スクール交換プログラム (中学生4名)、アバラマ州高校選抜生徒 (高校生21名)、Izalde交換プログラム (高校生9名)、メンロスクール交換プログラム (高校生1名)、EABJM (高校生14名)、メンロスクール美術交流プログラム (高校生18名)
	校内英語試験の実施	生徒全員が実用英語検定またはTOEFLを受験
	平和教育	中学2年長崎研修旅行、高校2年沖縄研修旅行
入試制度	新入生交流プログラム	中学1年、高校1年宿泊研修を実施
	体験学習プログラム	中学1年 (ハチ高原)、中学3年 (美浜町)
	中学入試制度の変更	入試日程の変更
学生生徒支援	奨学事業の実施	校友会奨学金 (給付1名)、新島奨学金 (給付2名)、海外長期留學奨学金 (給付4名)
	修学支援事業の実施	あんしん修学支援奨学金 (給付51名)

施設設備整備事業の内容

事業	内容補足	事業期間	事業費	財源
教学施設整備	校舎増築・耐震改修・部室棟・グラウンド人工芝化など	2013年8月～2014年11月	9億5,300万円	学生生徒等納付金、寄付金、補助金、法人内資金
	コールシステムの導入	2014年8月	2,328万円	学生生徒等納付金、補助金
	校内LAN整備工事	2014年8月	199万円	学生生徒等納付金

入学定員、入学者数、収容定員、生徒数 (2014年5月1日現在)

	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
中学校	90	86	300	295
高等学校	270	265	810	833
合計	360	351	1,110	1,128

教員数、職員数 (2014年5月1日現在)

教員数			職員数			教職員数
専任教員	嘱託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計	総計
51	69	120	7	3	10	130

※国際中学校の定員について
入学定員が90名の理由は、2年次に編入生が15名入るためである。 1年生…90名 2、3年生…105名ずつ

同志社小学校



DATA	■創立	2006年
	■所在地	〒606-0001 京都市左京区岩倉大鷲町89-1 TEL: 075-706-7786
	■URL	http://www.doshisha-ele.ed.jp/

知的好奇心にあふれ
自ら問い、学ぶ
創造的な人間を育成



同志社小学校
うちやまいちろう
内山伊知郎 校長

同志社小学校は開校10年を迎えました。この節目の年を一つの区切りとして、これまでの10年間で培ってきた伝統を守りつつ、新たな気持ちで次代に向けてのスタートを切りたいと思っています。具体的には、児童期の発達課題となる学ぶ姿勢や社会性を身に付けさせる教育と、同志社の良心教育をうまく合わせながら、知的好奇心にあふれ、自ら問い、学ぶ、自由で創造的な子どもの育成に努めます。

本物に触れ、感性を磨く

2006年の開校以来、本校は子どもたちが何事にも積極的に取り組み、問題解決能力を身に付けられるよう「道草教育」を実践しています。その理念をいっそう明確にするため、アクティブ・ラーニングという副題を付け、基礎学力をしっかりと付けたうえで、自ら得た知識を人に発信していきける子どもの育成に主軸を置いた教育を進めています。

本物に触れ、感性を磨く体験学習は、14年度から「同志社タイム」を今まで以上に充実させ、同志社卒業生などを招いて様々なプログラムを実施しました。1、2、3年生の子どもたちは、マリンバ奏者の素晴らしい演奏とお話を聞かせていただき、細胞学で世界的に有名な研究者による特別授業（理科）も受けました。4年生以上の子どもは、京都大学防災研究所の先生に防災に関するお話を聞かせていただきました。

4、5、6年の3学年を対象に、音楽公演と教育活動を行う非営利団体「ヤングアメリカンズ」のワークショップは今年も継続実施しました。子どもたちは、留学生と一緒に3日間かけてミュージカルを作り上げ、その体験を通して「作る喜び」を感じたようです。

人に発信できる能力を養成

6年生のアメリカ合衆国への修学旅行は、新島裏の足跡をたどったほか、

リタイアメントセンターでは高齢者に日本の文化を紹介し、ボストンの子ども博物館では現地の人たちと一緒に物づくりを楽しみました。その前段階として、5年生の体験学習では4泊5日の日程で新島が学んだ北海道に行き、3、4人のグループに分かれて農家に分宿

しながら農作業を体験しました。施設・設備面では、チャペルコートのウッドデッキの改修工事を行い、子どもたちの安全確保を目的にグラウンドの土を全面入れ替えました。プロジェクターを新型に入れ替え、授業やテレビ放送などに活用しています。

同志社小学校2014年度の事業実績

区分	事業	内容補足
教育・研究	宿泊体験学習	1年生：学校(1泊2日)、2年生：滋賀・青年の城(1泊2日)、3年生：ハチ高原(2泊3日)、4年生：一里野高原スキー(3泊4日)、5年生：北海道(4泊5日)、6年生：修学旅行が宿泊体験学習を兼ねる
	修学旅行	6年生：アメリカ合衆国(アーモスト、ボストン) 8泊10日
	水泳教室	継志館プールを使用して開催(7月22日～25日)
	同志社タイム	各界で活躍する同志社卒業生・在校生などを招き、本物に触れ感性を磨く体験学習を実施(「通崎睦美氏(マリンバ奏者)：演奏とお話(1年生～3年生対象)」「永田和宏氏(京大名誉教授)：特別授業(理科)」を開催)
	国際交流・国際理解教育	同志社大学の留学生を招き、英語の授業を中心に児童と交流を深める活動を実施する
	Young Americans (ワークショップ)	音楽公演と教育活動を行う非営利団体(Young Americans)が行なうMusic Outreachというワークショップを通し、国際主義を標榜する同志社において、早い時期から本物に触れることにより、豊かな感性を育む(4年生から6年生を対象)
学生生徒支援	奨学事業	同志社小学校奨学金(給付1名)
財政	同志社小学校教育支援および施設・設備整備資金募金	一口20万円

施設設備整備事業の内容

事業	内容補足	事業期間	事業費	財源
チャペルコート整備	ウッドデッキ基礎改修工事	2014年度	756万円	学生生徒等納付金、寄付金
グラウンド整備	グラウンド全体の表面土入れ替え	2014年度	562万円	学生生徒等納付金、寄付金
情報環境整備維持	プロジェクター、書画カメラ更新、iPadなど整備	2014年度	523万円	学生生徒等納付金、寄付金、補助金
	ファイルサーバーリプレイス	2014年度	355万円	学生生徒等納付金、寄付金

入学定員、入学者数、収容定員、児童数(2014年5月1日現在)

	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
小学校	90	81	540	531

教員数、職員数(2014年5月1日現在)

教員数			職員数			教職員数
専任教員	嘱託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計	総計
28	19	47	2	2	4	51

同志社国際学院



DATA ■創立 2011年
 ■所在地 〒619-0225 京都府木津川市木津川台7-31-1
 TEL : 0774-71-0810
 ■URL <http://www.dia.doshisha.ac.jp/>

真に自立した
 人物としての成長を
 お手伝い



同志社国際学院
 よこたけんじ
 横田健司 校長

“Learning for Life, Learning for the World, Learning for Love”をモットーに掲げる同志社国際学院では、児童・生徒が自らの人生を豊かにしながら、世界的な視野で活躍できる資質を磨けるよう、成長のお手伝いをしています。初等部では2014年度に初めての卒業生を送り出し、国際バカロレアのPYP認定の取得に向けた動きを本格化しました。国際部でも2015年のWASC認定取得に向けて、準備を進めました。

初等部：初めての卒業生を出す

2014年度の初等部での最大の達成事項は、1～6年までの全学年がそろい、初の卒業生を出したことです。その6年生は9月の修学旅行で米国（アーモスト、ボストン、ニューヨーク）で新島ゆかりの地や国連を訪ね、二つの国際バカロレア（IB）校と交流しました。

初等部は開校当時より、日本語45%、英語55%で授業を行う教育課程特例校の認定を文部科学省から受けています。14年度はIBの初等教育課程プログラム（PYP）実践に関する特例校の申請をしました。これが認められ、IBからも認定が取れると、一条校で初のPYP認定校となる見込みで、名実ともにIBのPYPに準拠した授業をフルに実施できるようになります。

国際部：WASC認定取得の準備

すでに後期中等教育課程プログラム（DP）、PYPのIB認定校となっている国際部は、2014年度には米国西部地域私立学校大学協会（WASC）の認証を受けるための準備を進め、15年4月にWASC調査団を迎え入れました。WASC認証を取得すると、全ての卒業生が日本を含む世界各国の大学受験資格を持つこととなります。

国際部は、神戸で開催された「模擬国連」に参加し、生徒たちが国連代表として議論を交わす疑似体験をしまし

た。また、初等部と合同で私立小学校連盟の音楽会にも参加しました。加え

て、作文や文学コンテストでも、初等部・国際部ともに入賞者が出ています。

同志社国際学院2014年度の事業実績

区分	事業	内容補足
教職員採用	初等部教諭4名採用(専任教諭)	担任3名、養護教諭1名
	初等部教諭1名採用(常勤講師)	担任1名
	国際部特別任用教諭2名採用	GANET2名
	国際部特別任用教諭7名採用	Elementary HR1名、Humanities1名、Technology1名、JSL1名、Music1名、Physics1名、Science1名
	非常勤嘱託職員1名 TIEアルバイト2名採用	校長補佐
教育・研究	初等部	IB PYP特例を文部科学省に申請 母語(日本語)を基盤としたバイリンガル教育を継続：教育課程特例校
	国際部	WASC認証の取得申請 IB DP、PYP認定取得済み MYP認定取得見込み(2017年)
	教職員IBワークショップ参加	初等部：国内6名、オンライン1名 国際部：海外1名、オンライン6名
	初等部 校内IBワークショップ開催	
	初等部 宿泊体験学習	滋賀、奈良、美山、安中ほか
	初等部 修学旅行	6年生：アメリカ合衆国(アーモスト、ボストン、ニューヨーク)
	初等部 宿泊体験学習	滋賀、豊岡、箱館山
入試制度	初等部 校外学習	探究型のカリキュラムに沿い、校外学習を実施
	国際部 校外学習	国際バカロレアのカリキュラムに沿い、校外学習を実施
入試制度	編転入、2015年度新入生の入学審査	初等部 秋学期入学、冬学期入学、春学期入学編転入試、新1年生入試(推薦、I枠、D枠) 国際部 随時実施
	財政	教育支援および施設・設備整備資金募金
その他	スクールバス増便	祝園：登校時 4便、下校時 5便 登美ヶ丘：登校時 3便 下校時 月・水～金3便、火4便、4校時の日3便

施設設備整備事業の内容

事業	内容補足	事業期間	事業費	財源
教育環境整備	体育館自動カーテン	2014年度	90万円	学生生徒納付金
視聴覚・情報環境整備	初等部 生徒用iPad配備	2014年度	70万2,000円	学生生徒納付金
校内施設整備	鉄棒	2014年度	58万5,360円	学生生徒納付金、寄付金

入学定員、入学者数、収容定員、児童数(2014年5月1日現在)

		入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
国際学院	初等部	60	55	360	323
	国際部 Grade1～12	随時	16	240	53
合計		—	71	600	376

教員数、職員数(2014年5月1日現在)

教員数			職員数			教職員数	
専任教員	嘱託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計	総計	
46	1	47	2	1	3	50	

同志社幼稚園



「表現する力」と
「伝える力」を養う
心の教育を実践



同志社幼稚園
どうし
堂腰きみ子園長

社会性を持ち、コミュニケーション力を大切に、人に優しく困っている人を助けることができる子どもとして成長できる子どもを育てることを目標としています。自分自身の思いや考えを「伝える力」そして「表現する力」を養うことが必要であり、2014年度はその目標が達成できるための保育に力を入れました。園児たちは、友だちと共に行動して「共汗」するとともに、「共感」しながら様々な力を身に付けていきました。

DATA ■ 創立 1897年
■ 所在地 〒602-0836 京都市上京区今出川通寺町西入常盤井殿町543-1
TEL : 075-251-4391
■ URL <http://kinder.doshisha.ac.jp/>

「心の教育」を年度目標に掲げる

キリスト教主義に基づく教育を実践する本園では、全園児を対象にした合同礼拝で聖書の話やたとえ話などをしてその話を聞いて、人を愛すること、そして人を許すことなど人と人が触れるときに大切なことを学ぶ機会を何度も体験しました。心を育てるための保育は目に見えないものですが、2014年度の目標にこの「心の教育」を掲げました。

例えば泣いている友達がいたら、まずそのことに気づくことが大切です。次に、その子が泣かずに済むよう自分はどうすればいいかを考える。そして様々な場面の対応の繰り返しによって感性が育っていきます。泣いている子に気づき、声をかけ、解決のために先生に伝えにくるという一連の行動の中で、園児の「表現する力」と「伝える力」を養いました。特に年長組の園児の多くがこの力をつけ、小学校に進学しました。

技能を育むために、跳び箱、マット運動、鉄棒、英語の教育も取り入れました。週に一回専門の講師を招いて技術を向上させました。保育のなかでも「できないこと」が苦手意識につながらないよう、何段の跳び箱を跳べたかななどの目標達成にはこだわらないようにしました。その結果、園児は意欲と関心を持って運動に親しむことができました。速歩や階段の昇降を始めたところ、脚力が鍛えられ、3学期には目に見

えて体力が向上しました。英語教育は、外国人の方に来園してもらい、異文化に親しむ機会を設けました。

各自の特性を見極めたチーム保育

絵画技法と表現活動の資質向上を目的に、縦割りのチーム保育も行いました。教諭が園児一人ひとりの特性を見極め、各自で絵を描くチームと、段ボールなどを使って大きな物を作るチームに分けて活動しました。さらに動的な行動を特に好む子どもたちには「のびのび隊」というクラスを結成しま

した。園児は、この隊の専属隊員になったり、創作活動を掛け持ちしたりしながら隊員として活躍しました。

課題を持っている園児のために、臨床心理士の資格を有するキダーカウンセラーの派遣を受け入れました。心理の専門家のアドバイスを受けながら、しっかりと子どもの将来を見据え、各自に合った保育指導に努めました。未就園児教室は、親子で一緒に楽しく遊べる内容にしていますが、子どもだけの参加を希望される傾向を受けて、母子分離型のクラスも開きました。

同志社幼稚園2014年度の事業実績

区分	事業	内容補足
教職員採用	教員の充実	未就園児教室充実に伴い1名増員
教育・研究	子育て支援	在園児に対する早期保育を試験的に実施し、子育て支援に貢献
	預かり保育の充実	全園児を対象に週4回実施
	未就園児教室の充実	地域の未就園児を受け入れて教育指導を行う未就園児教室の開催に重点的に取り組み、在園児や未就園児同士との交流など様々な体験を通して子どもの成長を促すとともに、地域の子育てを支援
	技術向上の取り組み	速歩、階段昇降により、脚力や筋力の向上に成果を上げたはさみなどを使用し工作を楽しみ、手先の技術向上に取り組んだ
	キダーカウンセラーの派遣	課題を持っている園児たちの成長を育むために、専門のカウンセラーの派遣を受け入れ

施設設備整備事業の内容

事業	内容補足	事業期間	事業費	財源
空調設備整備	保育室およびホールへ設置	2014年8月	453万円	学生生徒等納付金、補助金
園舎改修工事	屋根改修	2014年7月	197万円	学生生徒等納付金
ピアノ更新	老朽化したピアノの更新	2014年9月	93万円	寄付金
設備整備	園庭遊具修繕、空調室外機囲い設置	2014年4月	61万円	学生生徒等納付金、寄付金、補助金

入園定員、入園者数、収容定員、園児数 (2014年5月1日現在)

	入園定員	入園者数	収容定員	在籍者数
幼稚園	30	33	100	99

教員数、職員数 (2014年5月1日現在)

教員数			職員数			教職員数
専任教員	嘱託講師	教員合計	専任職員	有期職員	職員合計	総計
2	7	9	0	0	0	9

各学校2014年ハイライト

ハイライト ① 同志社中学校・高等学校

iPad導入に併せて学習ポータルサイトを構築

同志社中学校ではICTを活用した教育推進のため2014年度新入生から1人1台の「iPadミニ」を導入するとともに学習ポータルサイトを構築し、各教科の授業や家庭学習に活用しています。全教室に電子黒板と高速無線LAN、DA_WiN (Doshisha Academic Wi-Fi Network) を完備し、授業でインターネット検索、スカイプや授業支援アプリが活用できるICT環境を整えました。

iPad導入のコンセプトは「iPad×ABC」。「ABC」は「学びの基礎・基本」を示す「ABC」と「Active Learning

(能動的な学習)」「Blended Learning (e-learningを取り入れた学習)」「Collaborative Learning (協働的な学習)」のそれぞれの頭文字を表しています。iPadをThinking Toolとして活用し、「教科センター方式」×「iPad」×「ICT」の三つを融合した「学びのNEXT STAGE」をめざしています。

iPad導入に併せて構築された「学習ポータルサイト」により、「いつでも」「どこでも」「一人ひとりのペース」で学習できる環境のもとで、生徒は必要に応じて授業プリントや、教員が作成したデ

ジタル教材、漢字や英単語テストの練習問題、授業の解説動画などをダウンロードして活用しています。

2015年度には全校生の3分の2がiPadを活用して学習に臨むことになり、今後授業だけでなく、様々な場面でiPadが大いに活用されるでしょう。



ハイライト ② 同志社香里中学校・高等学校

高校2年生が6年ぶりのハワイ修学旅行へ

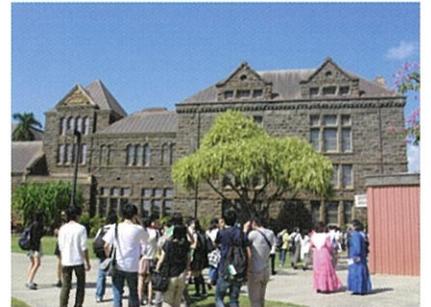
同志社香里高等学校では、2年生が2015年1月28日から2日2日までの日程で、米国ハワイ・オアフ島へ修学旅行を実施しました。前年まではオーストラリアが修学旅行の訪問先でしたが、6年ぶりにハワイに変更しました。

現地では、プナホウ・スクール、パプティスト・アカデミー、マキキ聖域キリスト教会を訪れ、現地の人々や学生・生徒と交流を深めるとともに、様々な

アクティビティー(活動)を体験しました。短い4日間でしたが、貴重な学習体



験を行い、生徒・教員全員が怪我もなく無事に帰国しました。



ハイライト ③ 同志社国際中学校・高等学校

クラス増に伴う校舎増築が完了、運用が始まる

同志社国際中学校・高等学校では、同志社国際学院初等部からの卒業生受け入れを2015年度から始めるため、中学校のクラスを一つ増やしました。これに伴い、校舎の増築を実施し、14年8月29日に竣工しました(外観は20ページを参照)。

同校は帰国生徒を外部募集で受け入れることを、社会的責任ととらえていま

す。そのため、同志社国際学院初等部からの生徒受け入れに当たって、外部募集はあまり減らさず、増築をしてクラスを増やしました。

今回増築したこの校舎は3階建てで、習熟度授業用の教室12、音楽教室と美術教室を二つずつ備えています。照明と採光による明るさが生かされた、新しい学び舎です。さらに、建材には京



都府産の材木を用いているため、木の温かみも感じられます。これは生徒たちにも好評を得ています。

法人の取り組み

大学ラグビー部・中尾GMを法人内連携指導者に

2014年6月3日、大学ラグビー部ゼネラルマネージャーの中尾晃氏に対して、法人内諸学校の中高大課外活動連携指導者（ラグビー）を委嘱する伝達式が行われました。

従来、学校間の交流・連携は、個々の学校の枠組みの協働で行われてきました。今回からの取り組みでは、法人内諸学校生徒が各学校の枠組みを超えて交流し、一つ「同志社」の名の下に活動を同じくすることを目的としています。



同制度では、連携例として「強化型」と「普及型」の二つのモデルを想定していますが、今回のラグビーは「強化型」に当たります。

第19回同志社国際主義教育講演会を開催

2015年1月14日、今出川校地良心館107教室にて、第19回同志社国際主義教育講演会を開催しました。講師には哲学者で大谷大学教授、せんだいメディアテーク館長の鷲田清一氏をお迎えし、「おとなの背中」の演題でお話いただきました。



「教育は教えることではなく伝えることであり、学校としては、子どもはそこにいれば勝手に育つような場所と時間と空間とを用意することが重要である」と結ばれた講演には、一般市民、学生など約140名が参加。講師の実体験に基づいた教育哲学に対する講演に熱心に聴き入り、質疑応答も活発に行われました。

中学生・高校生英語大会—立石杯—を開催

立石ファンドによる国際主義教育の一環として各種のプログラムを実施しました。

第1回となる「同志社 中学生・高校生 英語プレゼンテーション大会—立石杯—」を、2014年9月14日に開催しました。中学生の部に7チーム21名、高校生の部に8チーム24名の計15チーム45名が出場しました。



また、15年2月15日に4回目となる「同志社 中学生・高校生 英語大会—立石杯—Recitation & Speech Contest」を開催しました。中学生の部（Recitation Section）D部門11名・I部門2名、高校生の部（Speech Section）D部門10名・I部門4名の計27名が出場しました。

立石氏、山崎氏の2名を新たに社友に選定

2014年12月20日開催の理事会にて、立石信雄氏（元オムロン株式会社代表取締役会長）、山崎舜平氏（株式会社半導体エネルギー研究所代表取締役）の2名が新たに社友として選定されました。2015年3月28日、15時30分から大学神学館礼拝堂において「同志社社友記贈呈式」が挙行され、両氏に対して水谷誠理事長から社友記が贈呈されました。また、大谷實総長からは式辞で、「両氏を新たに社友としてお迎えできることは大変光栄なことであり、今後の同志社の発展・進化にますますお力添えをいただきたい」との挨拶がありました。



立石氏（中央左）と山崎氏（中央右）。

としてお迎えできることは大変光栄なことであり、今後の同志社の発展・進化にますますお力添えをいただきたい」との挨拶がありました。

【自然災害に対する緊急措置】台風や噴火、地震、大雪の被災者を対象に学費減免

2013年に続き、2014年も大きな自然災害が連続しました。同志社大学は「東日本大震災被災受験生に対する入学検定料及び被災学生に対する学費減免措置」を継続するとともに、次の14年の大規模自然災害についても、在学学生を対象に学費減免措置を実施しました。同志社女子大学も同様の措置を実施しました。

「台風8号による大雨等の被害に伴う学費減免の実施」

【長野県】木曾郡南木曾町
【山形県】南陽市

「台風11号、12号並びに大雨による被害に伴う学費減免の実施」

【高知県】吾川郡いの町、高知市、長岡郡大豊町、高岡郡四万十町
【徳島県】那賀郡那賀町
【京都府】福知山市
【兵庫県】丹波市
【広島県】広島市

「御嶽山噴火による被害に伴う学費減免の実施」

【長野県】木曾郡木曾町、木曾郡王滝村

「長野県北部地震による被害に伴う学費減免の実施」

【長野県】北安曇郡白馬村、北安曇郡小谷村、上内郡小川村

「大雪による被害に伴う学費減免の実施」

【徳島県】三好市、美馬郡つるぎ町、三好郡東みよし町

特集1

良心教育に関するシンポジウム

世界に通用する「良心」とは
良心教育の今日的意義を考える

2014年12月3日、同志社大学今出川校地の良心館で「良心教育に関するシンポジウム」が開催されました(主催:同志社キリスト教教育委員会)。「良心学」に関する取り組みを紹介すると同時に、世界に開かれ、通用する「良心」の在り方を提起し、良心教育の今日的意義についての課題の共有が目的でした。

なぜ「良心学」が必要なのか

大谷實総長による開会の挨拶に続き、同志社大学神学部の小原克博教授が「良心学とは」と題して基調講演をしました。小原教授は冒頭で、「良心学」が設けられた背景について話しました。

「初期の同志社では新島襄が校長として限られた学生と生活を共にし、学生たちは新島の言葉を聞き、背中を見ながら、その精神を体得していきました。しかし同志社が徐々に大きくなっていく中で、新島の考えや同志社の目指すところが見えにくくなっていきます。そこで05年に「同志社科目」を作り、建学の精神とキリスト教などの講義を行ってきました。

では、なぜ14年度に「良心学」を開講したのでしょうか。小原教授は、「同志社科目」と違う特徴があると言います。

一つ目は、対象とする時代の違いです。同志社科目は新島襄の生涯や初期同志社の歴史に焦点を当てているので歴史学の一部と言えますが、良心学は

同志社の良心を現代においてどのように適用していくのが主題です。二つ目は対象者の違いです。同志社科目は同志社の在校生向けに展開されてきましたが、良心学は同志社の枠を超えて世界にどう貢献できるのかを問うていきます。そして三つ目は多様な視点です。神学と宗教学、国際政治、社会福祉、現代イスラム研究や国際生命倫理の専門家などが集い、それぞれの視点・立場から良心との接点を探る議論を交わし、生まれたのが、良心学なのです。

続いて小原教授は、良心教育とは何かについて言及しました。この場合、良心という言葉だけに集中して議論するのではなく、新島が掲げたいろいろな理念を学ぶことが大切であると指摘しました。知徳並行教育、自由教育、「人ひとり」を大切にする姿勢、新島独自の地方教育論などです。本講演では、特に「人ひとり」を大切にする姿勢や地方教育論について、具体的な新島のエピソードを交えながら紹介しました。最後に、同志社創立150周年に向けて新しい良心学の方向性を示すことが重要で、三つの教育理念「キリスト教主義」「自由主義」「国際主義」について、再解釈、再定義していく作業が必要であると話しました。

良心と結び付いた建学理念を世界へ

基調講演の後は、『「良心学」が目指す地平』と題したパネルディスカッションが行われました。基調講演を行った小原教授がコーディネーターを務め、村田晃嗣学長、木原活信社会学部教授、内藤正典大学院グローバル・スタディーズ研究科長・教授、位田隆一大学院グローバル・スタディーズ研究科特別客員教授がパネリストで登壇しました。

村田学長が意識したのは、専門の国際政治からの視点です。「新島は150年前に国禁を犯して渡航した米国の白人社会の中でも、京都でキリスト教の学校をつくらうとしたときも、完全なマイノリティーでした。マイノリティーの視点がかつどれだけ生かされるかということ、自らを振り返る、自らを疑うという意味でも、良心を構成するときに大変大事ではないかと、新島の経験から改めて思います」。

木原教授は社会福祉学が専門です。「社会で苦しむ人と共に痛み苦しむこと自体が『良心』と密接にかかわり、社会を動かす重要なファクターになっているのではないかと思います」。

内藤正典教授が授業で伝えたのは、イスラムという宗教に関する良心です。「植民地支配の歴史の上に最後に出てきたのが『イスラム国』などによるテロ行為。だが彼らを武力で潰すことは絶対に不可能です。ならば、我々はどうに対話の道を開くことができるのかを若い学生たちに理解してもらいたくて、イスラムに関する授業を行いました」。

位田特別客員教授は「科学技術の良心」を問う授業をしました。「科学技術は、基本的には人類に恩恵を与えてくれますが、時に取り返しのつかない、非常に大きなマイナスを与える可能性がある。科学技術者、出来上がった科学技術を利用する者、そして科学技術政策を進める国という、3段階で良心を考える必要があるのです」。

同志社創立140周年を迎え、同志社は良心と深く結び付いた建学の理念を持っていることが強みであり、これをグローバルに展開していくことが、今後の発展に向けて非常に重要であることを再確認し、シンポジウムは閉会しました。



特集2

新島襄海外渡航150周年記念事業

函館、風間浦、今出川で熱い志を偲ぶ
多彩な記念行事を実施

1864(元治元)年6月14日、創立者の新島襄が国禁を犯し米国商船ベルリン号に乗り込み函館の地から渡航して、2014年度が150年目の記念の年に当たります。新島の思いを偲ぶ様々な記念行事を実施しました。

函館市で碑前祭を催行

2014年6月14日函館市大町にて、「新島襄海外渡航の地碑」碑前祭が学校関係者、校友、同窓、函館市民の方々など約130名の参加のもと行われました。式典は厳かな雰囲気の中で始まり、讃美歌を一同で斉唱し、水谷誠理事長の聖書朗読ならびに祈祷に続いて、大谷實総長から式辞がありました。

片岡格函館市副市長からの挨拶の後



は、出席者一同でカレッジソングを斉唱し、水谷理事長の祝詞の後、碑前に花束を捧げました。その後、会場を移して新島襄海外渡航150周年記念講演会が開催されました。

講演会終了後、函館山頂まで移動して、交流レセプションが開催されました。大谷實総長による開会挨拶の後、水谷誠理事長から150周年を記念して製作された「ベルリン号の復元模型」が片岡副市長に贈呈されました。村田晃嗣学長による乾杯の後、参加者は函館市内の景色を眺めながら新島先生の熱い志

を心に刻み、思い思いに交流を深めていました。



青森県風間浦村でも交流会

翌6月15日、青森県下北郡風間浦村、下風呂の海峡いさりび公園で、100名を超える参加者のもと、「新島襄寄港の地碑」碑前祭が執り行われました。風間浦村は、新島襄が函館に向かう途上、北風と激しい潮流を避けるため3日間寄航したゆかりの村です。

碑前祭の終了後、風間浦中学校体育館で「学校法人同志社・風間浦村交流午餐会」が開催され、村田学長から150周年を記念して製作された「ベルリン号の復元模型」が飯田浩一風間浦村村長に贈呈されました。また、新島襄寄港の地建立にご尽力された樋口喜四郎様(代理で樋口宏様)、徳弘篤介様、濱田秀子様に対して飯田村長から表彰状が手渡されました。

その後、大間港から函館港まで向か



うフェリーの中で、同志社校友会主催の船上レセプションが行われ、新島が150年前に渡った海上で当時を偲び新島の熱い志を感じながら思い思いにひと時を過ごしました。この船上レセプションをもって、「新島の足跡を辿る」碑前祭ツアーは終了しました。



企画展「新島襄の『蓬桑』の志」開催

さらには、第3回企画展「新島襄渡航150周年 新島襄の『蓬桑』の志」が開催されました。開催日は、6月5日～22日、会場は同志社大学ハリス理化学館同志社ギャラリー2階企画展示室(同志社大学今出川キャンパス)です。展示会場には、新島襄渡航にゆかりのある絵画『脱国』『ボストン上陸』や、ベルリン号の復元模型などを展示。また、記念リーフレット「新島襄の『蓬桑』の志」が発行されました。

さらに、記念事業として同志社エンタープライズと京都・伏見の老舗酒蔵山本本家の共同企画で誕生した、同志社オリジナル日本酒「同志社大吟醸」が発売されました。日本酒ラベルは、ベルリン号のイラスト、新島の真筆の写し「同志社」の文字、新島が寄港先の香港で読んだ漢詩「男児決志馳千里」を配したデザインが施されています。

特集3 グラフで見る同志社

※小学校は2006年度から含んでいます。
※国際学院は2011年度から含んでいます。

図1 学生・生徒・児童・園児数



学生数は大学、女子大学とも学部増設により漸増しています。また、中高小学校および幼稚園においても、国際学院の学年進行などによって生徒数が増加しています。

図2 志願者数



大学、女子大学とも入試改革や入試広報の強化、新学部・学科などの展開により、志願者を安定的に確保してきました。中学校においても、2012年度にいくつかの学校で実施した入試改革により、志願者数が増加しています。

図3 教員数



教員数は、学部・研究科の新設や研究体制の整備など教学改革の進行に伴って、専任、嘱託講師とも増加しています。職員数については、非専任の活用や一部業務を外部委託に移行させるなど効率化を進めながら、事務組織強化のため漸増しています。

図4 職員数



図5 専任教員数



2006年の小学校、2011年の国際学院初等部・国際部の設置、大学、女子大学の新学部・研究科への新規採用などにより、近年は専任教員数の増加傾向が続きました。

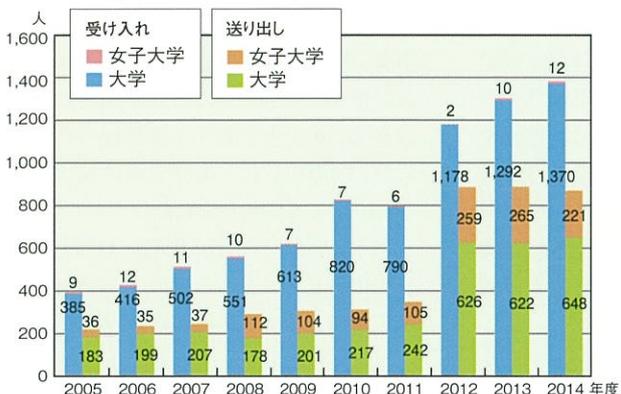
図6 専任教員1人当たりの学生・生徒・児童・園児数



図1の学生生徒数を図5の専任教員数で割ったのがこのグラフで、数値が小さいほど教育研究条件の充実度が高いと考えられます。近年は各校ともほぼ同じ水準を保っています。

図7 留学生生数

各年度5月1日現在。ただし、2012年度から送り出しは年度内に出国した人数



大学における文部科学省の「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業(グローバル30)」の採択(2009年度)などにより、留学生の受け入れは着実に増加してきました。本事業は、様々な成果を取って取り組みの到達目標を達成し、事後評価結果で最高の「S」評価を取得しました。送り出しについても、文部科学省の「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援(Go Global Japan)」の採択(2012年度)により、大幅に増加しています。

図8 留学生地域別状況

受け入れは5月1日現在。送り出しは年度内に出国した人数

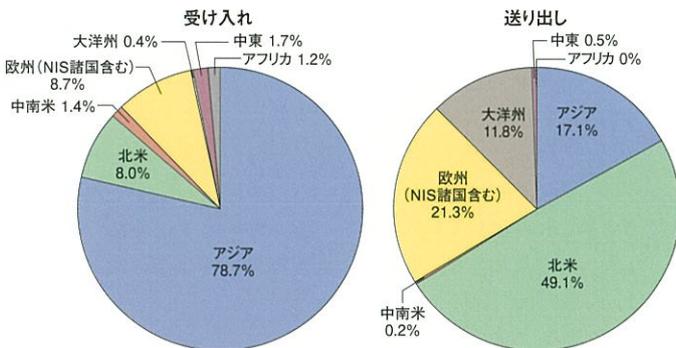


図9 学内奨学金

大学奨学金の入学前募集については、2011年度までは給付決定数、2012年度より辞退者を除く支給実績で集計



京都府の私立高等学校あんしん修学支援事業における京都府私立高等学校等授業料減免事業等補助金を活用した奨学金の充実(2011年度)、大学での若手研究者育成のための奨学金の新設(2012年度)により、給付額が大幅に伸びて総額10億円を突破しています。今後も制度の充実を逐次図ることで学生生徒の勉学を支えていきます。

図10 就職率(内定率)



就職率(内定率)とは就職希望者数に対する就職決定者数の比率です。景気変動により、年によって若干の低下がみられるものの、近年は上昇傾向に転じています。総じて安定的に高い水準を維持しています。

図11 科学研究費補助金



図12 受託研究費



図13 奨学寄付金(研究助成)



折れ線は各研究費の採択・受け入れ件数、棒グラフは金額を表しています。研究分野における産官学連携を促進するため、学内の受け入れ体制を整備したことにより、研究費に対する外部資金の導入は順調に進んでいます。

概況

2014年度は、大学に「ビジネス研究科グローバル経営研究専攻修士課程」を開設しました。女子大学では、「看護学部」の2015年度開設を進めました。国際学院初等部は開校4年目で6学年が揃い、初めて卒業生を送り出しました。

法人内諸学校の学生・生徒・児童・園児数は、学部の年次進行などにより、昨年度比128名増加の42,804名(2015年2月末現在)となり、学生生徒等納付金の安定的収入を確保することができました。

また、大学、女子大学の一般選抜入学試験では、昨年度を下回ったものの、安定した入学志願者数を確保し、手数料で予算額を上回る増収となりました。寄付金も大学への奨学基金あて寄付金や今出川キャンパス新校舎建設資金寄付金、国際学院開設記念寄付金、補助金でも経常費補助金などの増収もあり、帰属収入総額は予算を大きく上回っています。

支出では、経常的な事業支出は翌年度への繰り延べや執行残などにより減少し

ました。建設事業では、大学の耐震改修事業、複合的研究施設や宗教教育施設の建設事業、女子大学の看護学部関連棟建設事業、女子中学校・高等学校の新校舎建設、国際中学校・高等学校の校舎増築などの事業を実施しました。

以下、学校法人会計基準に基づく計算書を中心にして、本年度の本学の財政状況を説明します(文中、表の金額は、説明のため百万円未満を四捨五入など調整し、百万円単位で表しています)。

資金収支計算書

2014年度法人総合資金収支計算書は表1のとおりです。

[()内は予算比: +は増加、△は減少]

(1) 収入の部

学生生徒等納付金収入

477億6,200万円(+1億200万円)

予算積算時の収納見込額からの差異により、大学で8,000万円、女子大学で1,200万円の増収となるほか、香里中学校・高等学校、国際学院の各学校で増収です。

手数料収入

22億4,600万円(+7,900万円)

入学検定料は、予算計上数に対する入学志願者数の増加により、大学で4,600万円、女子大学で1,400万円の増収のほか、各学校においても増収です。

寄付金収入

6億6,000万円(+1億6,400万円)

民間企業等、在学生の保護者、卒業生、父母の会、校友会などからの寄付の他、奨学基金宛ての寄付、大学の寄付教育研究プロジェクト研究活動宛ての寄付や今出川キャンパス新校舎建設資金宛ての寄付、国際学院開設記念宛ての寄付などにより、大学で予算に対して8,700万円の増収、女子大学でも施設整備費宛ての寄付などにより6,300万円の増収となりました。

寄付金明細はファクトブックに掲載しています。

補助金収入

61億6,400万円(+3億2,000万円)

国庫補助金は、日本私立学校振興・共済事業団などから大学、女子大学への私立大

学等経常費補助金、文部科学省から大学への国際化拠点整備事業費補助金、研究拠点形成費等補助金、私立大学等研究設備整備費等補助金などで、予算に対して2億9,500万円増収の42億円となりました。

地方公共団体補助金は、京都府や大阪府などから各中学校・高等学校、小学校、国際学院、幼稚園への私学運営費補助金、授業料軽減補助金などで、予算に対して2,500万円増収の18億9,500万円となりました。

補助金明細はファクトブックに掲載しています。

資産運用収入

8億1,900万円(+7,200万円)

第3号基本金、退職給与、減価償却など引当資産運用収入および受取利息配当金は実績により3,000万円の増収、施設設備利用料収入は、4,100万円の増収となりました。

資産売却収入

137億7,300万円(+97億2,200万円)

第2号基本金引当資産売却収入は建設事業への充当、第3号基本金、退職給与、減価償却など引当資産売却収入は満期を迎えた有価証券の償還などによるものです。

事業収入

11億3,900万円(+2億5,400万円)

企業などからの受託研究による収入、寮費や小学校給食費、国際学院スクールバスでの収入、外国語講座などセミナー受講料収入、知財のロイヤリティなどを計上しています。大学、女子大学の受託

事業収入は、受託研究契約に基づき1億7,100万円の増収です。

雑収入

13億2,300万円(+1億6,900万円)

退職金財団交付金収入は9億9,700万円で、大学、中学校・高等学校、女子中学校・高等学校、国際学院の各学校での依願退職者の見込みからの増により8,400万円の増収、特許出願支援や損害保険料などにより、その他雑収入で8,400万円の増収となりました。

(2) 支出の部

人件費支出

308億1,700万円(+7,800万円)

教員人件費は209億5,500万円で、予算に対して2,500万円の増加、職員人件費は80億3,600万円で1億3,400万円の減少となりました。退職金支出は17億9,900万円で、依願退職者数の見込みからの増加に伴い、1億8,800万円増加しました。

なお、前年度に比べると、教員人件費は1億7,500万円の増加、職員人件費は2億4,400万円の増加となっています。

教育研究経費支出

166億8,300万円(△4億9,600万円)

教育研究費、実験実習費の予算執行残や、情報環境整備関連費用の翌年度繰り延べ、主に消耗品費、旅費交通費、施設設備維持管理費用などで節減や予算未執行により、総額では予算内に収まりました。

なお、前年度に比べると、消費税増税に伴う影響や、主に光熱水費、委託費の支出増などで予算額を上回り5億5,300万

表1 2014(平成26)年度 法人総合資金収支計算書

(単位：百万円)

支出の部				収入の部			
科目	予算	決算	差異	科目	予算	決算	差異
人件費支出	30,739	30,817	△ 78	学生生徒等納付金収入	47,660	47,762	△ 102
教育研究経費支出	17,179	16,683	496	手数料収入	2,167	2,246	△ 79
管理経費支出	2,769	2,723	46	寄付金収入	496	660	△ 164
借入金等利息支出	14	14	0	補助金収入	5,844	6,164	△ 320
借入金等返済支出	287	287	0	資産運用収入	747	819	△ 72
施設関係支出	8,620	7,575	1,045	資産売却収入	4,051	13,773	△ 9,722
設備関係支出	2,039	2,141	△ 102	事業収入	885	1,139	△ 254
資産運用支出	5,598	15,269	△ 9,671	雑収入	1,154	1,323	△ 169
その他の支出	1,917	2,018	△ 101	前受金収入	9,371	10,366	△ 995
予備費	120	0	120	その他の収入	2,538	2,541	△ 3
資金支出調整勘定	△ 1,468	△ 1,430	△ 38	資金収入調整勘定	△ 11,011	△ 11,409	398
次年度繰越支払資金	21,933	25,132	△ 3,199	前年度繰越支払資金	25,845	25,845	0
支出の部合計	89,747	101,229	△ 11,482	収入の部合計	89,747	101,229	△ 11,482

ファクトブックに、中科目かつ円単位で表示した資金収支計算書を掲載しています。

円の増加となっています。

管理経費支出

27億2,300万円(△4,600万円)

消耗品費、旅費交通費、通信費、賃借料、委託費、広告費の予算未執行や節減により、総額では予算内に収まりました。

なお、前年度に比べると、施設の修繕費や、消費税納税の増加による公租公課の支出で5,000万円の増となっています。

借入金等利息支出

1,400万円(予算どおり)

過年度に建設した校舎などの建築資金に対する日本私立学校振興・共済事業団からの借入金の利息支払額です。

借入金等返済支出

2億8,700万円(予算どおり)

上記借入金の約定返済額です。

施設関係支出・設備関係支出

計97億1,600万円(△9億4,300万円)

建物、構築物、機器備品、図書、ソフトウェアなどの固定資産取得による支出です。なお、固定資産への計上が必要とされるリース取引にかかるリース料総額を含んでいます。

大学では今出川校地での耐震改修工事ならびに京田辺校地複合的研究施設や宗教教育施設建設工事、女子大学では今出川キャンパス整備事業や看護学部関連棟

等建設工事、中学校・高等学校では校地整備事業、国際中学校・高等学校では校舎増築事業、女子中学校・高等学校では耐震改修工事や新校舎建設事業等を実施しました。

内訳については各校の「事業の概要」の「施設設備整備事業の内容」をご覧ください。

資産運用支出

152億6,900万円(+96億7,100万円)

有価証券の満期償還にともなう引当資産などの買い替え、また本年度に増額した第3号基本金、減価償却引当資産に対する引当資産への繰り入れです。

学校会計の用語解説

学校法人会計基準に基づいて作成する財務計算書類には大きく分けて、資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表の3つがあります。

資金収支計算書

当該年度の支払資金の顛末、すなわち学校法人の1年間の諸活動に伴うお金の動きを網羅したものです。

消費収支計算書

当該年度の経営状況を表すものです。しかし、企業会計の損益計算書のような利益の測定が目的ではなく、収支の対応や均衡状態を示すことに主眼が置かれています。学校法人の使命は教育研究の永続的な充実発展であることから、財政基盤の安定を重視しているのです。

貸借対照表

一定時点(3月末現在)の財産の状況を明らかにするものです。

計算書で使用する用語とその意味は次のとおりです。

帰属収入

当該年度の収入のうち、学校法人の負債としない収入をいいます。したがって借入金、前受金、預り金などは含まれません。

基本金組入額

基本金とは、学校法人がその諸活動の計画に基づいて継続的に維持すべき資産で、下記の第1号から第4号に該当するものです。これは帰属収入の中から充当します。これを基本金の組入(くみいれ)といいます。

第1号基本金は自己資金による土地、建物、設備などの固定資産の取得額、第2号基本金は将来の固定資産取得に備えた資金の先行組入額、第3号基本金は基金の積立額、第4号基本金は恒常的に保持すべきものとされる1カ月分の運転資金相当額です。

消費収入

当該年度の消費に充てる収入で、帰属収入から基本金組入額を差し引いたものです。

消費支出

人件費、物件費、減価償却額、借入金利息など当該年度に消費する支出です。

教育研究経費と管理経費

物件費は、直接教育研究に要するものとそれ以外の経費に分類します。後者に該当するのは、役員の業務執行、総務・人事・財務・経理その他法人業務、教職員の福利厚生、学生募集、食堂や売店、学寮(全寮制を除く)に要する経費などです。

消費収支差額

消費収入と消費支出の差額で、財政の均衡状態を表します。これがマイナスであると、消費支出超過いわゆる赤字で、収支が均衡せず資金不足となっていることを示します。

消費収支計算書

表2 2014(平成26)年度 法人総合消費収支計算書

(単位: 百万円)

消費支出の部				消費収入の部			
科目	予算	決算	差異	科目	予算	決算	差異
人件費	30,726	30,768	△ 42	学生生徒等納付金	47,660	47,762	△ 102
教育研究経費	23,021	22,526	495	手数料	2,167	2,246	△ 79
うち 減価償却額	5,843	5,843	0	寄付金	496	832	△ 336
管理経費	3,022	2,975	47	補助金	5,844	6,164	△ 320
うち 減価償却額	253	252	1	資産運用収入	747	819	△ 72
借入金等利息	14	14	0	資産売却差額	0	11	△ 11
資産処分差額	31	96	△ 65	事業収入	885	1,139	△ 254
徴収不能引当金繰入額	136	132	4	雑収入	1,154	1,323	△ 169
徴収不能額	0	7	△ 7	徴収不能引当金取崩額	0	1	△ 1
予備費	120	0	120	帰属収入合計	58,953	60,297	△ 1,344
消費支出の部合計	57,070	56,518	552	第1号基本金組入額	△ 4,638	△ 3,751	△ 887
当年度消費収支差額	△ 5,384	△ 2,595		第2号基本金組入額	△ 2,550	△ 2,550	0
前年度繰越消費収支差額	△ 27,552	△ 27,552		第3号基本金組入額	△ 48	△ 42	△ 6
基本金取崩額	5	3		第4号基本金組入額	△ 31	△ 31	0
翌年度繰越消費収支差額	△ 32,931	△ 30,144		基本金組入額合計	△ 7,267	△ 6,374	△ 893
				消費収入の部合計	51,686	53,923	△ 2,237

ファクトブックに、中科目かつ円単位で表示した消費収支計算書を掲載しています。

2014年度法人総合消費収支計算書は表2のとおりです。

[()内は予算比: +は増加、△は減少]

(1) 帰属収入の部

602億9,700万円 (+13億4,400万円)

学生生徒等納付金、寄付金、補助金、事業収入、雑収入などの増収により、予算比2.3%の増加となりました。前年度と比べると、8億7,200万円、1.4%減となっています。

(2) 基本金組入額の部

第1号基本金組入額

37億5,100万円 (△8億8,700万円)

当年度の固定資産増加額は施設および設備関係支出、現物寄付で98億8,800万円、過年度事業にかかわる借入金等返済支出は2億8,600万円となり、一方で施設や設備の更新による当期除却高は24億3,700万円、過年度に組み入れた第2号基本金からの振替額は40億3,200万円となっています。

第2号基本金組入額

25億5,000万円 (予算どおり)

将来に教学施設設備などを取得するた

め、計画に基づいて資金の組み入れを行いました。

第3号基本金組入額

4,200万円 (△600万円)

奨学事業に宛てた寄付金の組み入れや、教育研究事業を継続的に維持するため設定した基金への組み入れなどです。

基本金明細はファクトブックに掲載しています。

(3) 消費支出の部

565億1,800万円 (△5億5,200万円)

退職者の見込みからの増加による人件費、図書などの除却による6,300万円を含む資産処分差額でも予算を上回りましたが、教育研究経費は、予算執行残や情報環境整備関連費用の翌年度繰り延べなどにより、予算内に収まりました。消費支出は予算に対して1.0%の減少となり、前年度に比べると7億5,900万円、1.4%増となっています。

(4) 消費収支差額の部

当年度消費収支差額

△25億9,500万円

帰属収入が増収となる一方、基本金組入と消費支出が減少したことから、消費収支差額は依然支出超過ではあるものの、予算に対して27億8,900万円改善しました。

翌年度繰越消費収支差額

△301億4,400万円

消費収支の推移

図3は消費収支の均衡状態の推移を示したものです。

帰属収入は堅調に増加し、支出では大規模な建設事業を行った年度で基本金組入額が増加しています。

図4、5は帰属収入と消費支出の主な科目の伸び率です。

帰属収入では、学生生徒等納付金はならぬかな上昇カーブを描いています。手数料も、安定した入学志願者を確保しています。事業収入の伸びは、受託研究事業など産官学連携の進展によります。

消費支出では、教育研究活動の活性化を反映して教育研究経費が伸び、学部・研究科の新設や計画的な教員増員により人件費が増加しています。

資産運用のリスクに対応するために

学校法人の資産は教育研究活動を安定的・継続的に支えるための大切な財産であり、資産の運用に際しては、安全性が強く求められます。そのため、学校法人同志社では、資産運用の対象や基準を定めるとともに、資金運用委員会を

設け、運用計画の立案、運用状況の管理、運用結果の点検などを行い、その内容を適宜理事会に報告しています。

特に2007年夏以降、米国のサブプライムローン問題を契機に始まった世界的な金融危機によ

り、運用資産(債券)の時価が下落するなど運用リスクが高まったため、「有価証券の評価換え」ならびに「運用債券の損失時の対応」に関する取り扱いを定め、適切な運用管理に努めています。

図1 帰属収入の構成比

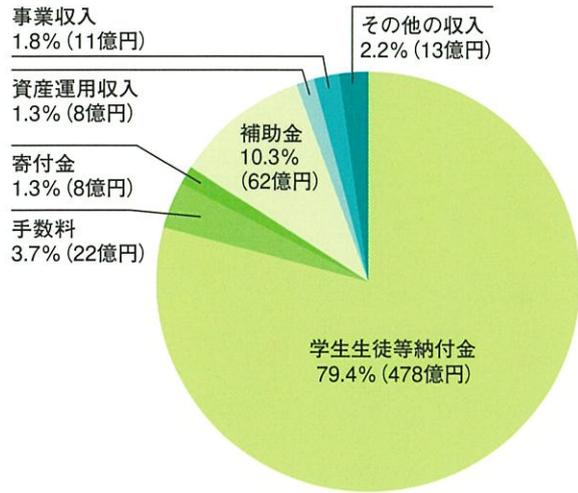


図2 消費支出+基本金組入額の構成比

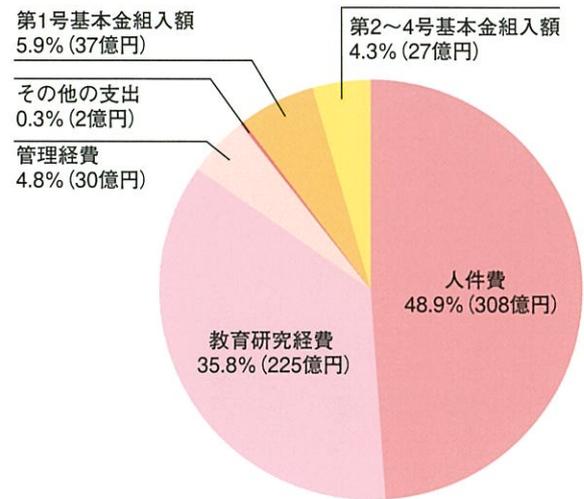


図3 消費収支の推移

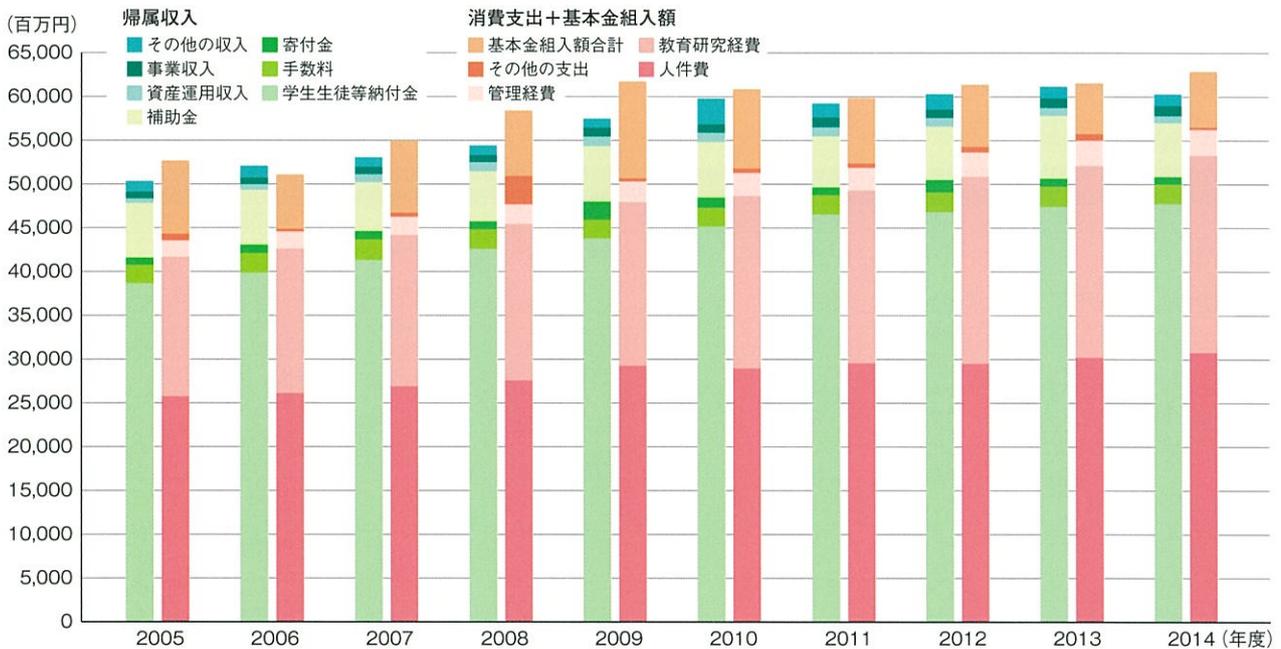


図4 帰属収入の伸び率

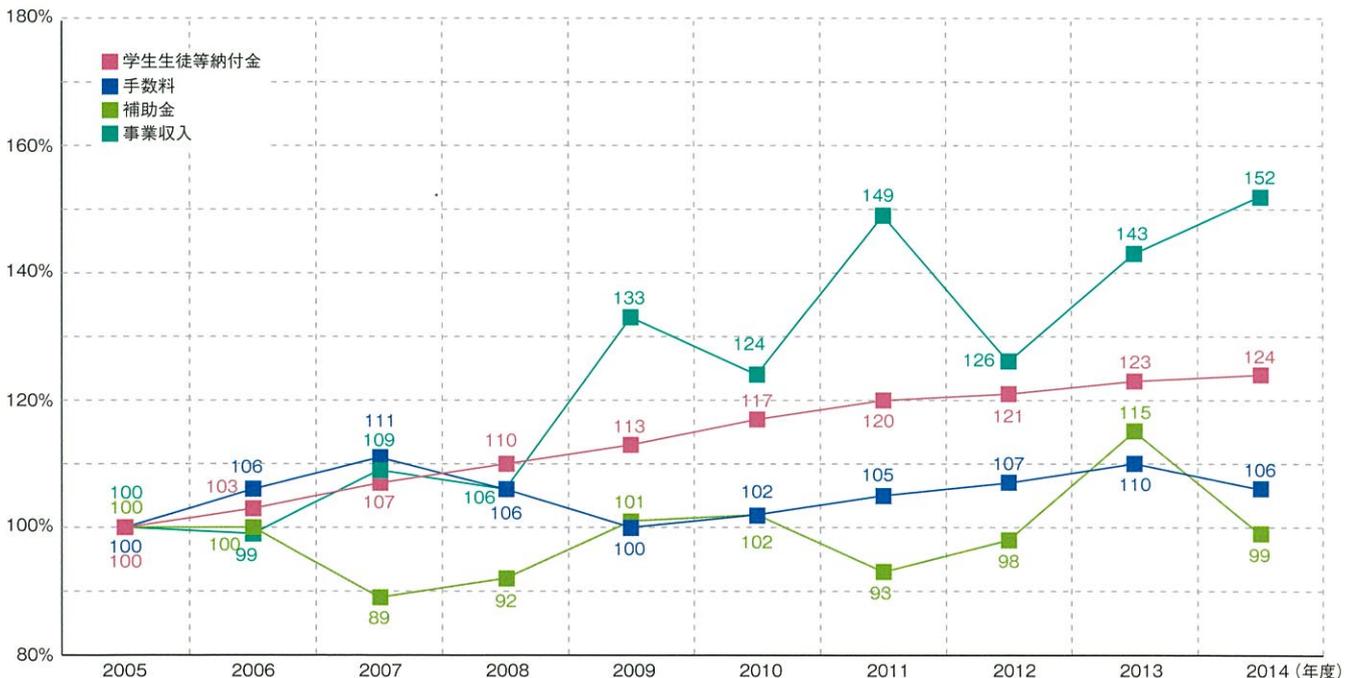
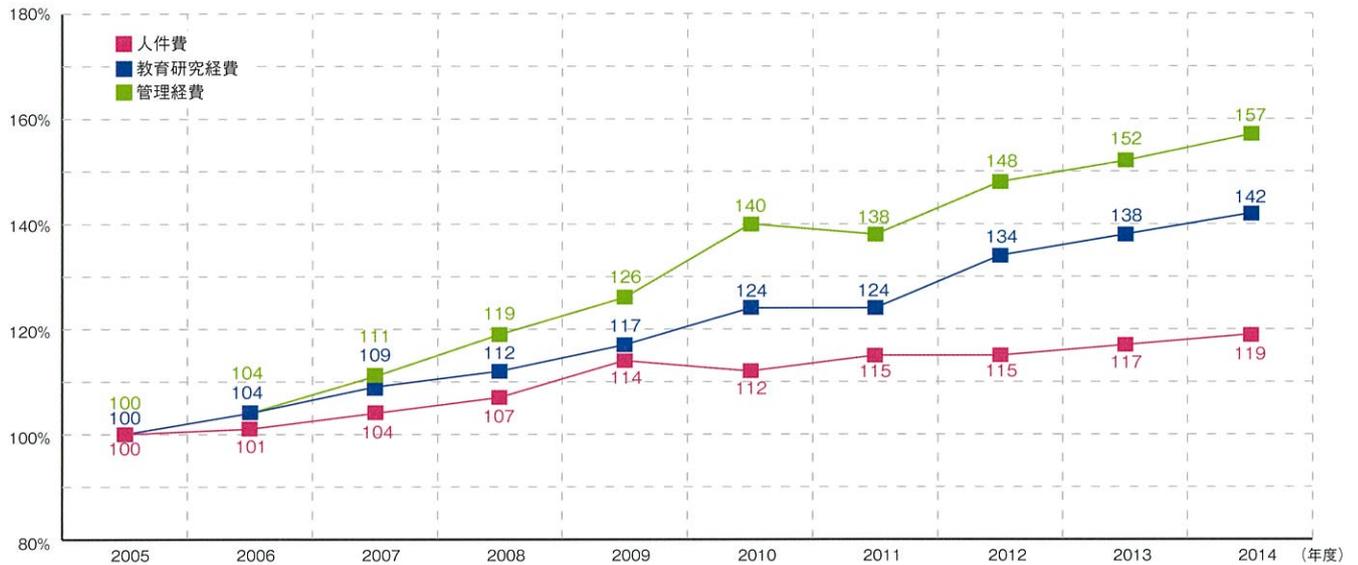


図5 消費支出の伸び率



貸借対照表

表3 法人総合貸借対照表

2015(平成27)年 3月31日現在 (単位:百万円)

資産の部				負債・基本金及び消費収支差額の部			
科目	本年度末	前年度末	増減	科目	本年度末	前年度末	増減
[固定資産]	217,887	213,161	4,726	[固定負債]	15,566	15,797	△ 231
(有形固定資産)	139,477	135,796	3,681	長期借入金	327	473	△ 146
土地	18,753	18,751	2	未払金	150	180	△ 30
建物	83,383	80,943	2,440	退職給与引当金	15,053	15,103	△ 50
構築物	4,889	4,798	91	教職員年金引当金	17	22	△ 5
教育研究用機器備品	12,554	12,947	△ 393	受入保証金	19	19	0
その他の機器備品	163	190	△ 27	[流動負債]	12,994	13,111	△ 117
図書	16,856	16,523	333	短期借入金	147	287	△ 140
車輛・舟艇・航空機	5	10	△ 5	未払金	1,235	1,395	△ 160
建設仮勘定	2,874	1,634	1,240	前受金	10,367	10,156	211
(その他の固定資産)	78,410	77,365	1,045	預り金	1,090	1,121	△ 31
ソフトウェア	215	233	△ 18	修学旅行費預り金	148	149	△ 1
ソフトウェア仮勘定	47	10	37	仮受金	7	3	4
借地権	208	208	0	負債の部合計	28,560	28,908	△ 348
電話加入権	20	20	0	[第1号基本金]	216,317	208,536	7,781
施設利用権	20	21	△ 1	[第2号基本金]	6,730	8,213	△ 1,483
有価証券	20	20	0	[第3号基本金]	19,400	19,358	42
長期貸付金	4,608	5,051	△ 443	[第4号基本金]	3,948	3,917	31
第2号基本金引当資産	6,730	8,213	△ 1,483	基本金の部合計	246,395	240,024	6,371
第3号基本金引当資産	19,400	19,358	42	[翌年度繰越消費支出超過額]	△ 30,144	△ 27,552	△ 2,592
退職給与引当資産	15,054	15,103	△ 49	前年度繰越消費支出超過額	△ 27,552	△ 27,170	△ 382
教職員年金引当資産	17	22	△ 5	当年度消費収支差額	△ 2,592	△ 382	△ 2,210
減価償却引当資産	32,000	29,000	3,000	消費収支差額の部合計	△ 30,144	△ 27,552	△ 2,592
支払保証金	70	105	△ 35	負債・基本金および消費収支差額の部合計	244,811	241,380	3,431
出資金	1	1	0	減価償却額の累計額の合計額	77,977		
[流動資産]	26,924	28,219	△ 1,295	基本金未組入額	771		
現金預金	25,132	25,845	△ 713				
未収入金	1,228	1,820	△ 592				
短期貸付金	0	0	0				
前払金	293	289	4				
仮払金	123	116	7				
修学旅行費預り資産	148	149	△ 1				
資産の部合計	244,811	241,380	3,431				

ファクトブックに、円単位で表示した貸借対照表および学校法人会計基準に基づく注記事項を掲載しています。

2014年度法人総合貸借対照表は表3のとおりです。図6は過去10年間の貸借対照表推移をグラフ化したものです。消費収支差額は支出超過であるため、棒グラフの基本金の先端部分に網掛けで表現しており、この部分が資金不足額となります。

(1) 資産の部

固定資産のうち有形固定資産は、教育研究活動の拠点となる土地、建物、構築物や機器備品の整備充実により増加してきました。05年度は大学臨光館、小学校明心館、07年度は大学医心館、磐上館、08年度は大学継志館の取得、女子大学純正館、中学校・高等学校桑志館、恵潤館、09年度は大学多々羅キャンパスの取得、中学校・高等学校立志館、10年度は、大学烏丸キャンパスの取得、国際学院抱志館、香里中学校・高等学校新特別教室棟、12年度は、大学良心館、志高館、香里中

学校・高等学校尚志館、香友館、14年度は大学訪知館、言館、光館建設などによるものです。また、14年度増加の建設仮勘定は、女子大学ならびに女子中学校・高等学校の整備事業などによるもので、翌年度以降に建物などになります。

その他の固定資産は、第2号基本金の引当資産を減額、減価償却の引当資産を増額しました。この結果、本年度末の固定資産総額は前年度比2.2%増の2,178億8,700万円となりました。

流動資産は、現金預金、未収入金などで、本年度末は前年度比4.6%減の269億2,400万円です。

(2) 負債・基本金・消費収支差額の部

固定負債のうち長期借入金は、計画的な返済により着実に減少を続け、残高は10年前の10分の1程度となりました。退職給与引当金は、期末要支給額の100%を

引き当てています。

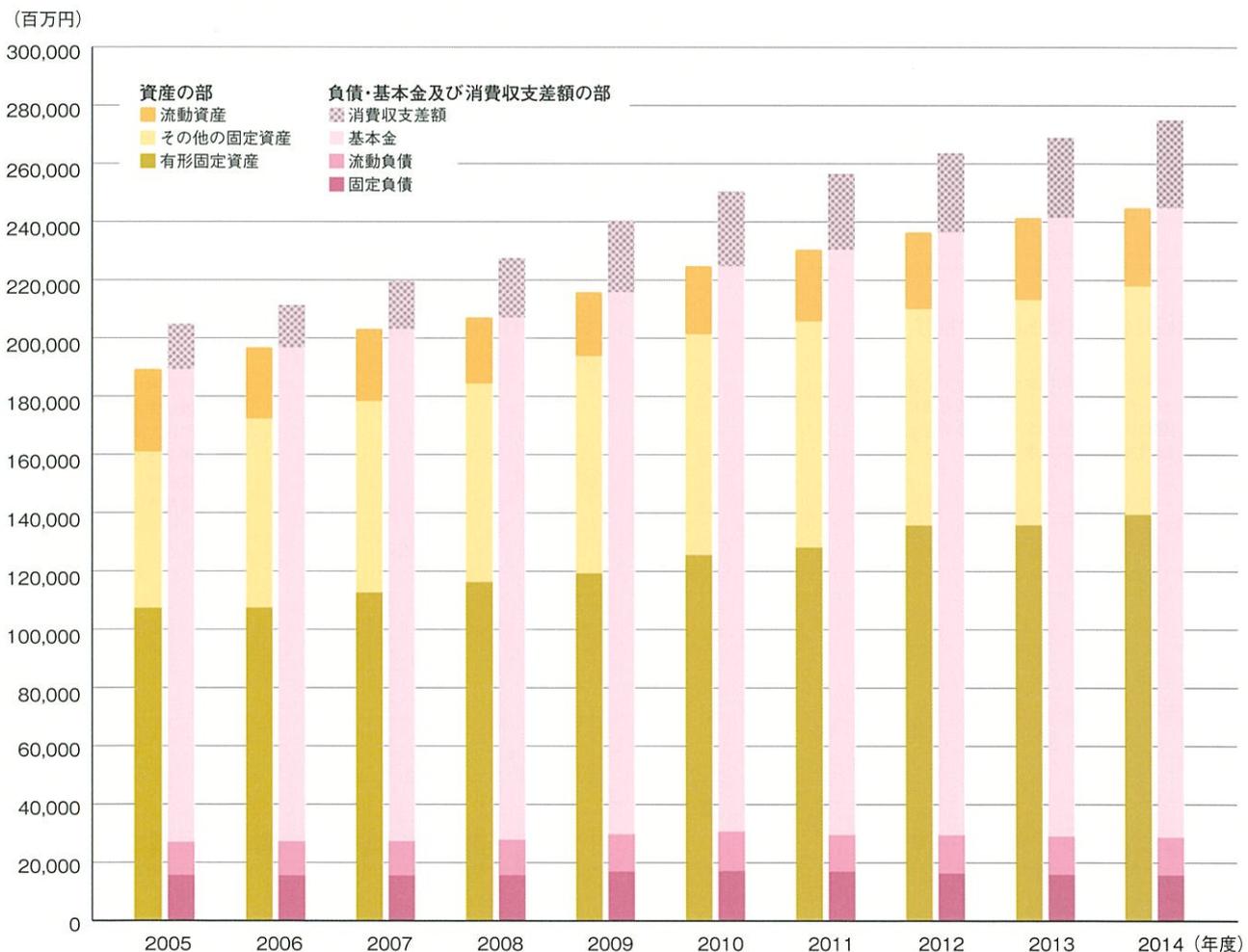
流動負債は新入生学費の前受金が大部分を占めています。

基本金は、第1号基本金が自己資金による固定資産の取得と借入金の返済などで前年度比3.7%増の2,163億1,700万円、第2号基本金は計画に基づく組み入れと建設事業への充当により前年度比18.1%減の67億3,000万円、第3号基本金は前年度比0.2%増の194億円、第4号基本金は前年度比0.8%増の39億4,800万円となっています。

消費収支差額は、帰属収入が堅調に推移している一方で、大規模な建設事業を自己資金で賄っているため消費支出超過となり、この結果翌年度に繰り越す消費支出超過額は301億4,400万円となりました。

また、減価償却額累計額は779億7,700万円となっています。

図6 貸借対照表の推移



財務比率

財務比率は、計算書の科目間の比率を算出して、経年変化の追跡や全国平均との比較を行い、財政状況の分析に利用するものです。表4、5は本学と全国平均の比較、図7、8は本学の過去10年間の推移グラフです。

消費収支計算書関係比率について本学の指標値を全国平均と比較すると、学生生徒等納付金比率は高く、補助金比率は低めで、学費への依存度が比較的高い収入構造となっています。経費に関する比率では、低いほうがよいとされる人件費比率と管理経費比率はともに全国平均内にあります。また教育研究経費比率は教育研究の充実度を表し、高いほうが望ま

しいとされており、本学は全国平均を上回っています。

学校法人は帰属収支差額の中から基本金組入額を賄うため、帰属収支差額比率は10%以上が望ましいとされています。本学の帰属収支差額比率は、世界的な金融危機の影響を受け、運用資産の評価差額の計上により6.4%となった08年度を除き、12年度までは10%以上で推移していましたが、消費支出の増加が帰属収入の伸びを上回り、近年は10%を下回っています。

貸借対照表関係比率では、固定比率や固定長期適合率で土地、施設設備などの固定資産が自己資金で賄えているかどうかを見ます。負債比率や総負債比率は、自己

資金に対する負債、すなわち他人資金の割合です。また、基本金比率は、基本金組入の対象となる資産に対して組入れ済みの基本金がどれだけあるかを示すものです。

流動比率は、各種引当資産の充実と資金運用の効率化を図り、207.2%となっています。また、新規建設事業は借入金に依存せず自己資金で行っており、基本金比率も着実に増加しています。

教学組織の新設、施設設備の充実など活発な教学改革の影響から収支バランスが一時的に崩れる年度がありますが、自己資金の安定的確保、固定資産および基本金の充実、借入金など外部負債の減少の状況が指標値に表れています。

表4 消費収支計算書関係比率

(単位：%)

比率	算式(×100)	評価指標	本学	全国平均
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{帰属収入}}$	—	79.2	72.4
寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{帰属収入}}$	↑	1.4	2.2
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{帰属収入}}$	↑	10.2	12.8
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	↓	51.0	52.4
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	↑	37.4	31.5
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	↓	4.9	8.8
帰属収支差額比率	$\frac{\text{帰属収入}-\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	↑	6.3	5.2

表5 貸借対照表関係比率

(単位：%)

比率	算式(×100)	評価指標	本学	全国平均
固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金}}$	↓	100.8	99.2
固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金}+\text{固定負債}}$	↓	94.0	91.7
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	↑	207.2	245.9
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{自己資金}}$	↓	13.2	14.4
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	↓	11.7	12.6
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	↑	99.7	97.1

評価指標 ↑高い値が良い ↓低い値が良い 全国平均：「今日の私学財政」(日本私立学校振興・共済事業団)による医歯系法人を除く2013年度数値

図7 消費収支計算書関係比率の推移

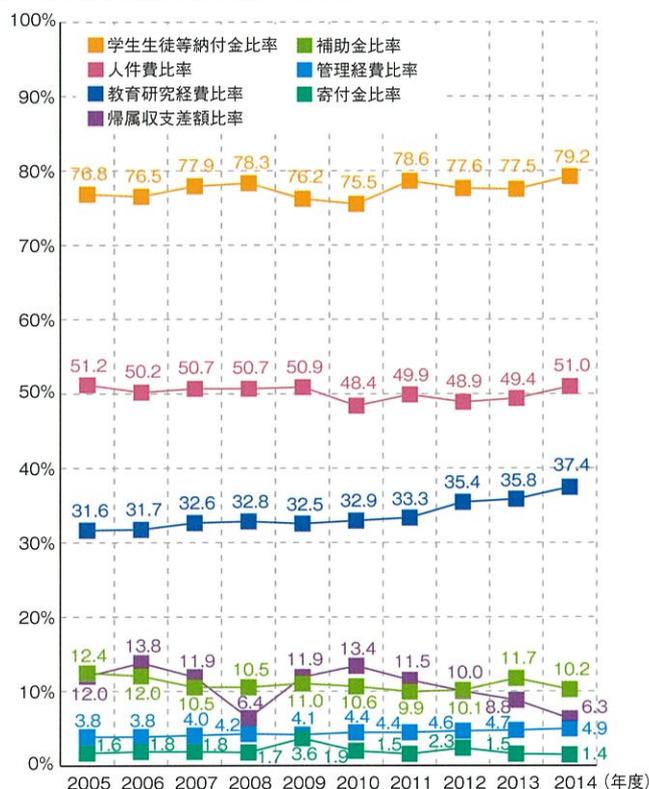
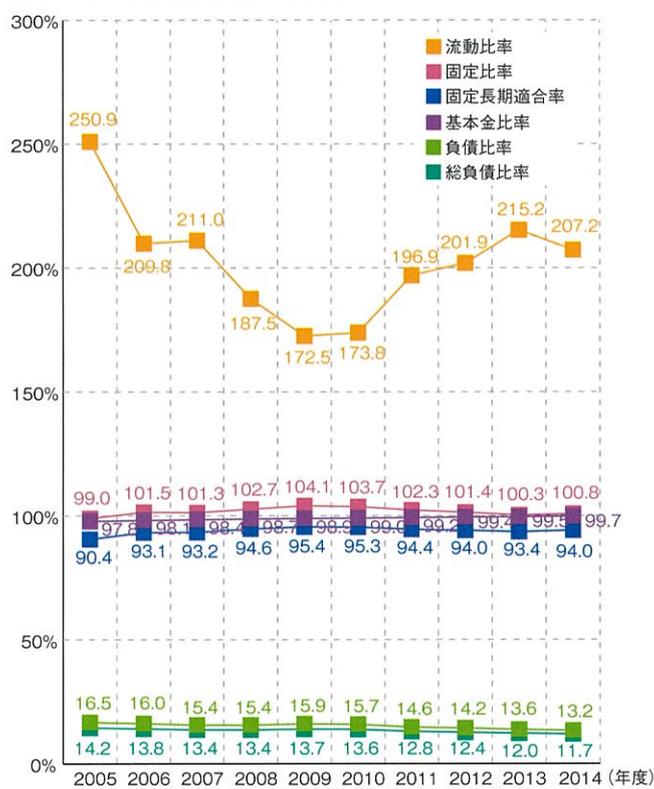


図8 貸借対照表関係比率の推移



学校別の状況

各学校の収支状況を表6「学校別収支計算書」によって説明します。

大学では、学生生徒等納付金、寄付金、補助金、事業収入、雑収入などの増収はありましたが、帰属収入合計は408億5,600万円と前年度に比べて2.1%減となりました。基本金組入額は、今出川校地耐震改修工事、京田辺校地訪知館、光館、言館建設工事などの事業を実施し、将来の施設整備のための第2号基本金とあわせて40億2,200万円となりました。

消費支出は、教育研究経費および管理経費の予算執行残や翌年度以降への繰り延べなどにより、総額では予算額を下回りました。退職者の見込みからの増加による人件費、図書などの除却による資産処分差額では予算を上回りましたが、合計では385億6,900万円と前年度に比べて0.5%増となり、この結果、17億3,500万円の消費支出超過となりました。

女子大学では、学生生徒等納付金、手数料、寄付金などの増収により、帰属収入合計は105億9,000万円と前年度に比べ

て1.3%減となりました。基本金組入額は、今出川キャンパス整備事業、看護学部関連棟など建設工事を実施し、第2号基本金とあわせて15億2,600万円となりました。

消費支出は、人件費、管理経費などの予算執行残により、合計では91億2,500万円と前年度と比べ1.6%減となり、この結果、6,100万円の消費支出超過となりました。

各中学校・高等学校、小学校、国際学院、幼稚園では、学生生徒等納付金において、香里中学校・高等学校、国際学院では、前年度に比べて増収となり、他の学校でも前年度並みの収入を確保しています。補助金は、国際中学校・高等学校、香里中学校・高等学校、女子中学校・高等学校、小学校、国際学院、幼稚園では、予算見込み額から増収になりました。基本金組入額は、中学校・高等学校で、南体育館および付属棟のための第2号基本金とあわせて3億100万円、女子中学校・高等学校で、教学施設整備のための第2号基本金とあわせて2億7,400万円を組み入れています。

小学校は開校9年目となり、開校後は支出を収入で賄うことのできない支出超過の状況でしたが、全学年が揃った以降、収支は均衡安定した状況となっています。

法人部勘定では、各学校の建設事業資金の法人内での資金調達額および償還額を繰入金と繰出金に計上しています。

特別会計では、年金会計、住宅会計を計上しています。

収支計算書について

この計算書は学校法人会計基準による消費収支内訳表の体裁をとりつつも、部門間のみなし配分を避け、内部取引の収支を明らかにする目的で、計上方法を一部変更しています。

すわなち、学校法人部門は大学に、新設学部などの開設前の収支は、それぞれの設置校に含めています。各中学校・高等学校は、中学校、高等学校の合計額で、大学附属の小学校、国際学院も独立した部門として表示しています。また、内部取引の各校認識額については繰入金・繰出金に、法人に係る経費の各校分担額は分担金(支出)に計上しています。

表6 2014(平成26)年度 学校別収支計算書

(単位：百万円)

	大学	女子大学	中高	国際中高	香里中高	女子中高	小学校	国際学院	幼稚園	法人部勘定	特別会計	合計
学生生徒等納付金	32,130	9,287	1,781	994	1,231	1,307	530	450	51			47,761
手数料	1,781	382	17	22	23	15	3	3	1			2,247
寄付金	522	101	39	38	22	49	35	12	14			832
補助金	3,807	401	507	293	567	405	103	59	21			6,163
資産運用収入	553	186	12	6	11	14	6		2		28	818
資産売却差額	11											11
事業収入	927	64		67			65	16				1,139
雑収入	989	151	38	57	40	38	3	3	5			1,324
繰出金	27	18	8	438	6	6	6			305		814
徴収不能引当金取崩額			1									
分担金	109											109
帰属収入合計	40,856	10,590	2,403	1,915	1,900	1,834	751	543	94	305	28	61,219
基本金組入額合計	△ 4,022	△ 1,526	△ 301	△ 188	△ 46	△ 274		△ 11	△ 6			△ 6,374
消費収入の部合計	36,834	9,064	2,102	1,727	1,854	1,560	751	532	88	305	28	54,845
人件費	20,345	4,565	1,485	1,026	1,192	1,053	427	620	54			30,767
教育研究経費	16,296	3,564	713	597	516	337	268	219	16			22,526
管理経費	1,675	907	73	156	54	30	14	64	3			2,976
借入金等利息	4		1	4	4							13
資産処分差額	86	3		7								96
繰入金	27	4	177	2	133	13				430	28	814
徴収不能引当金繰入額	129	2	1									132
徴収不能額	7											7
分担金		80	9	6	7	7						109
消費支出の部合計	38,569	9,125	2,459	1,798	1,906	1,440	709	903	73	430	28	57,440
当年度消費収支差額	△ 1,735	△ 61	△ 357	△ 71	△ 52	120	42	△ 371	15	△ 125	0	△ 2,595

2015年度の事業計画

【周年事業】

法人では創立140周年を迎え、改めて良心教育を確認するとともに、この精神を更に広く深く継承・発展することを目的とし、講演会並びにシンポジウムを実施します。大学においても、記念行事や特設のWEBサイトを立ち上げます。

また、国際中学校・高等学校は開校35周年、小学校は10周年を迎え、記念式典や記念行事、記念講演などを行います。

【教学組織】

大学では、免許資格課程センターに新たに教員組織を設け、学生へのサポート体制を充実します。

女子大学では、創立者の医療に対する想いを今に受け継ぎ、看護実践能力を備え、社会に貢献できる女性を育成する「看護学部」を京田辺キャンパスに設置します。

国際中学校・高等学校では、中学校の定員増を行い、国際学院初等部からの新入生を初めて迎え入れます。

【教育研究】

大学では、「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援 (Go Global Japan)」や「博士課程教育リーディングプログラム」の取り組みを引き続き推進し、グローバルな人物を育成する拠点として、本学の特性を生かした教育プログラムを展開し、世界で活躍するリーダーの教育を実践します。また、ビジネス研究科グローバル経営研究専攻では、国際認証取得を目指した申請準備を行います。

女子大学では、卒業後のキャリア形成

に及ぼす効果の調査研究などをする機関として「女性アクティベーションセンター」を設置します。

各中学校・高等学校では、国際感覚に富み国際社会に貢献できる生徒の育成を目的とした立石ファンドを活用し、特色ある国際主義教育の取り組みを継続します。国際中学校・高等学校では、スーパーグローバルハイスクールに向けての取り組みを進めます。国際学院では、教員の技能向上のためPD (Professional Development) 研修へ参加、ミドルスクールでは、タイへの宿泊学習を実施し、国際パカロレア教育の充実を図ります。

教育環境面で大学では、学術情報システム・学術リポジトリシステムや電子資料提供システムを更新します。女子大学では、Webを利用した教育・学習支援システムや新図書館システムの導入を行います。小学校では、情報機器の更新や、PM2.5を除去できる空気清浄器を設置します。国際学院では、授業での利用を拡充するため情報機器の充実を図ります。

【学生生徒支援】

大学では、2校地間無料シャトルバスを継続するほか、路線バスの一部を多々羅キャンパスへ延伸し、利用者の便宜を図ります。また、企業研究セミナーの業務委託を行い、スムーズな就職活動に入れるよう支援します。

女子大学では、ボランティア活動を実践できる学生を育成し、支援することを目的とした「ボランティア活動支援セン

ター」を設置します。

また各高等学校において、生徒が安心して勉学に専念できるよう修学支援のための奨学金制度を継続します。

【建設事業】

大学では、新町別館、尋真館の耐震改修工事を行います。京田辺校地では、サッカー場、アメリカンフットボール場の人工芝改修工事や、知真館1、2号館のトイレ改修工事を継続して実施するほか、IC化に伴う入退館管理整備工事を実施します。また、安全確保のため、継志館プールの天井改修工事も行います。

女子大学では、年次計画に従う今出川キャンパス整備事業で、新心館・動物飼育室建設や、デントン館・頌美館の改修を行います。

中学校・高等学校では、しらすき会館の改修工事、女子中学校・高等学校では、新校舎建設工事や静和館トイレ改修工事、小学校では防球ネット設置工事を行います。

【その他の事業】

大学では、特色の対外的な発信を強化し、独自性を明確化し選ばれる大学となることを目的としたリブランディング事業を継続して行うほか、産官学連携研究会やシンポジウムを東京オフィスで開催します。また、新情報システム整備計画に従い、教務システムおよび入試システム、学費システムの更新を実施します。

女子大学では、京都聖母女学院高等学校「同志社女子大学クラス」生徒の受け入れを開始します。

表7 2015(平成27)年度以降の収支見通し

(単位:百万円)

収入の部	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
学生生徒等納付金	46,788	47,954	47,975	48,096
手数料	2,155	2,156	2,156	2,156
寄付金	341	467	467	467
補助金	5,727	6,681	6,406	6,410
受取利息・配当金	478	647	654	667
付随事業・収益事業収入	583	857	861	862
雑収入	967	402	854	898
帰属収入合計	57,039	59,164	59,373	59,556
基本金組入額合計	△ 5,269	△ 4,069	△ 3,709	△ 4,368
消費収入の部合計	51,770	55,095	55,664	55,188
人件費	30,845	31,032	31,310	31,390
教育研究経費	22,460	21,562	21,669	21,667
管理経費	2,926	2,722	2,725	2,725
借入金等利息	9	6	3	1
資産処分差額	30	338	0	0
徴収不能引当金繰入額	70	153	153	153
予備費	354	353	352	352
消費支出の部合計	56,694	56,166	56,212	56,288
基本金取崩額	200	227	0	0
当年度消費収支差額	△ 4,724	△ 844	△ 548	△ 1,100

理事、監事、評議員

理事 (○印 理事長)

大谷 實 (総長)
村田 晃嗣 (大学長)
加賀 裕郎 (女子大学長)
木村 良己 宮本 義信 (学校長等互選)
濱 直樹 木原 活信 松尾 博文 ○水谷 誠 (評議員互選)
中村 友二 西澤 由隆 玉村三保子 (学識経験者)
井上 礼之 千田 衛 立石 義雄

評議員 (○印 議長)

圓月 優子 藤本 千佳 平松 譲二 今里 滋 木原 活信
小崎 眞 松尾 博文 宮崎 興也 望月 慶子 西澤 由隆
瀬川 貴之 園田 毅 田中 康博 龍城 正明 ○上田 慧 (教職員互選)
船越 照平 濱 直樹 井上 幸男 小嶋 淳司 南 美樹
中村 公紀 中村 友二 坂 光司 上野 道雄 山下 泰生 (校友会選定)
柳井 繁彌 加賀由起子 清水久美子 玉村三保子 余田由香利 (同窓会選定)
東 信行 川井 国孝 児玉 實英 水谷 誠 望月 修治 (理事会選定)
中井 晨 大橋 寛治

監事

長谷川正治 植田 弘 鶴飼 哲夫

2015年4月現在

沿革

1875 (明治 8) 年 11月 29日	官許「同志社英学校」を開校 新島襄初代社長に就任	1951 (昭和26) 年 3月 9月	[大学] 教養学部解散 (1948年4月発足) 香里学園を合併し、香里中学校、 同高等学校を開校
1876 (明治 9) 年 9月 10月	今出川校地 (相国寺門前の薩摩藩邸跡) に 校舎、食堂を建て寺町から移る 京都御苑内の旧柳原邸 (現・京都迎賓館の一部) で女子塾を開設	1953 (昭和28) 年 4月 1954 (昭和29) 年 4月	[大学] 大学院博士課程開設 [大学] 短期大学部を発展的に解消、大学2部 (4年制) (文・法・経済・商・工各学部) 開設
1877 (明治10) 年 4月 9月	同志社分校女紅場を開設 女紅場を同志社女学校と改称	1955 (昭和30) 年 4月 1967 (昭和42) 年 4月 1968 (昭和43) 年 4月 1975 (昭和50) 年 4月	[大学] 工学研究科修士課程開設 [女子大学] 文学研究科修士課程開設 [女子大学] 家政学研究科修士課程開設 創立100周年を迎え、記念事業を行う [女子大学] 文学研究科博士後期課程開設
1883 (明治16) 年 2月 1884 (明治17) 年 4月 9月	「同志社社則」を制定 新島、2度目の海外旅行に出発 (翌年12月帰国) 同志社最初の煉瓦建築、彰栄館竣工 (国の重要文化財)	1976 (昭和51) 年 3月 1980 (昭和55) 年 4月 1986 (昭和61) 年 4月	商業高等学校廃校 国際高等学校開校 田辺校地 (現・京田辺校地) 開校 大学・女子大学の授業開始 [女子大学] 短期大学部開設
1886 (明治19) 年 6月 1887 (明治20) 年 11月 1888 (明治21) 年 11月	新礼拝堂 (チャペル) 竣工 (国の重要文化財) 書籍館 (現・有終館) 開館 (国の重要文化財) 同志社病院・京都看病婦学校の開院、開校式 「同志社大学設立の旨意」を 全国の主要雑誌・新聞に発表	1988 (昭和63) 年 4月 1989 (平成元) 年 4月 1991 (平成 3) 年 4月 1994 (平成 6) 年 4月	国際中学校開校 [女子大学] 学芸学部 に日本語日本文学科開設 [大学] アメリカ研究科開設 [大学] 工学部、および工学研究科、 理工学研究所を田辺校地 (現・京田辺校地) に統合移転
1890 (明治23) 年 1月 23日 7月 9月	新島、静養先の神奈川県大磯にて永眠 (46歳) アメリカの実業家J.N.ハリスの10万ドルの 寄付によるハリス理化学館竣工 (国の重要文化財) ハリス理化学校開校	1995 (平成 7) 年 4月 1997 (平成 9) 年 4月 1999 (平成11) 年 4月 2000 (平成12) 年 4月 2002 (平成14) 年 4月 2004 (平成16) 年 4月	[大学] 総合政策科学研究科開設 [大学] 昼夜開講制を実施 [大学] 留学生別科開設 創立125周年を迎え記念事業を行う [女子大学] 現代社会学部開設、短期大学部募集停止 [女子大学] 学芸学部 に情報メディア学科開設 [香里中学] 共学化 [大学] 政策学部開設 工学部に情報システムデザイン学科、 環境システム学科開設 司法研究科 (法科大学院) 開設 ビジネス研究科 (ビジネススクール) 開設 [女子大学] 現代社会学部に 現代こども学科開設 国際社会システム研究科開設
1891 (明治24) 年 9月 1892 (明治25) 年 6月	政法学校開校 [女学校] 本科を普通科、高等科を 専門科 (師範科、文学科、神学科) に改める	2005 (平成17) 年 4月	創立130周年を迎え記念事業を行う [大学] 文学部・文学研究科を再編して 社会学部・社会学研究科開設 文化情報学部開設 [女子大学] 薬学部開設 同志社小学校開校
1893 (明治26) 年 10月 1894 (明治27) 年 1月	同志社徽章 (校章) を制定 神学館 (現・クラーク記念館) 開館式 (国の重要文化財)	2006 (平成18) 年 4月 2007 (平成19) 年 4月	[大学] 文化情報学研究科開設 [女子大学] 学芸学部 に国際教養学科開設 [大学] スポーツ健康科学研究科開設、 グローバル・スタディーズ研究科開設 [中高] 中学校・高等学校統合 [大学] グローバル・コミュニケーション学部開設
1896 (明治29) 年 4月 1897 (明治30) 年 3月	普通学校を同志社高等普通学校と改称し、 新たに同志社尋常中学校を開設 M.F.デントン、出町幼稚園 (現・同志社幼稚園) を開園	2008 (平成20) 年 4月	同志社国際学院開校 [大学] 脳科学研究科開設 工学研究科を理工学研究科と改称 [女子大学] 薬学研究科開設 [大学] グローバル地域文化学部開設 [女子大学] 音楽専攻科開設 [大学] ビジネス研究科グローバル経営研究専攻 修士課程開設
1900 (明治33) 年 1901 (明治34) 年 3月	出町幼稚園を今出川幼稚園と改称 [女学校] 普通科を高等普通部と改め、 新たに専門学部を設置	2009 (平成21) 年 4月 2010 (平成22) 年 4月	心理学部・心理学研究科開設 [女子大学] 表象文化学部開設 創立135周年を迎え記念事業を行う [大学] スポーツ健康科学研究科開設、 グローバル・スタディーズ研究科開設 [中高] 中学校・高等学校統合 [大学] グローバル・コミュニケーション学部開設
1904 (明治37) 年 4月 1906 (明治39) 年 4月	専門学校令による神学校と専門学校を開校 政法学校廃校 同志社病院・京都看病婦学校閉鎖 ハリス理化学校廃校	2011 (平成23) 年 4月 2012 (平成24) 年 4月	同志社国際学院開校 [大学] 脳科学研究科開設 工学研究科を理工学研究科と改称 [女子大学] 薬学研究科開設 [大学] グローバル地域文化学部開設 [女子大学] 音楽専攻科開設 [大学] ビジネス研究科グローバル経営研究専攻 修士課程開設
1908 (明治41) 年 1912 (明治45) 年 4月	同志社カレッジソングができる 専門学校令による同志社大学 (予科、神学部、政治経済学部、英文科)、 女学校専門学部 (英文科、家政科) を開校	2013 (平成25) 年 4月 2014 (平成26) 年 4月 2015 (平成27) 年 4月	[大学] 文化情報学研究科開設 [女子大学] 学芸学部 に国際教養学科開設 [大学] 生命医科学部開設、スポーツ健康科学 部開設、工学部を再編し理工学部開設、 理工学部に数理システム学科開設、 生命医科学研究科開設 [大学] 心理学部・心理学研究科開設 [女子大学] 表象文化学部開設 創立135周年を迎え記念事業を行う [大学] スポーツ健康科学研究科開設、 グローバル・スタディーズ研究科開設 [中高] 中学校・高等学校統合 [大学] グローバル・コミュニケーション学部開設
1920 (大正 9) 年 4月 1922 (大正11) 年 4月	大学令による同志社大学 (文学部、法学部、大学院、予科) の開校 専門学校令による大学を専門学校 (神学部、英語師範部、高等商業部、 政治経済部) として再編成		
1928 (昭和 3) 年 1月 1929 (昭和 4) 年 4月 1930 (昭和 5) 年 6月 9月 12月	[女学校] 普通学部を女学校高等女学部と改称 [専門学校] 高等商業部を岩倉に移転 [女学校] 専門学部を女子専門学校と改称 [女学校] 普通学部を高等女学部と改称 [専門学校] 高等商業部を高等商業学校と改称		
1943 (昭和18) 年 4月 1944 (昭和19) 年 4月	中学校令による中学校開校 工業専門学校 (電気通信科、機械科、化学工業科) 開校		
1947 (昭和22) 年 4月 1948 (昭和23) 年 4月	新学制により新制中学校、女子中学校発足 新制大学 (神学部、文学部、法学部、経済学部) 新制高等学校、新制定時制商業高等学校、 新制女子高等学校を設置		
1949 (昭和24) 年 4月	商学部と工学部を新設し、大学は六学部となる 女子大学 (学芸学部) 開校 高等学校が岩倉校地へ移転		
1950 (昭和25) 年 4月	[大学] 大学院修士課程 (神・文・法・経済・商各研究科) を開設 [大学] 短期大学部 (夜間2年制) (英語・商経・工各学科) 開設		

2015年4月現在